エフピコレポート2023

株式会社エフピコ

エフピコ福山本社

株式会社エフピコは2022年に創業60周年を迎えました

1962年に広島県福山市で創業して以来、60年にわたり食品トレー・容器の製造と販売を続けてきました。現在では全国に生産工場、物流センター、営業所を配置するだけでなく、使用済み製品のリサイクル施設も設けています。2022年には初めての海外進出として、LSSPI社(マレーシア)に出資しました。

私たちの理念は60年間変わりません。「現場主義」と「顧客第一主義」を経営理念に、皆様の快適な食生活の創造に全力を注いでいます。皆様のお役に立つ、便利で欠かすことのできない、食事が楽しくなる、環境に配慮した食品容器を、エフピコはこれからもつくり続けてまいります。

CONTENTS

イントロダクション

社訓・経営理念・エフピコグループが目指すもの …… 3
エフピコの価値創造プロセス …… 5
トップメッセージ …… 7
エフピコグループの歴史 …… 13
製造・販売製品 …… 15
トピックス …… 17
ニュース …… 19

価値創造のプロセス

エフピコの事業スタイル …… 21
調達 …… 25
マーケティング …… 27
製品開発 …… 29
製造 …… 31
物流 …… 33
販売 …… 35
リサイクル …… 37

サステナビリティに向けた取組み

エフピコグループの重要課題 …… 39
CO_2排出削減の取組み …… 41
TCFD提言に基づく情報開示 …… 42
エフピコ方式リサイクル …… 43
新たな価値を提供する製品の開発 …… 45
製商品の安定供給 …… 46
従業員のエンゲージメント向上 …… 47
インクルージョンの推進 …… 49
対談『エフピコとフロアホッケーの幸せな関係』 …… 51
コーポレートガバナンス …… 55
コミュニティへの参画 …… 57
「エフピコ環境基金」 …… 58
人材育成方針 …… 59
健康経営 …… 60

会社概要 …… 61

エフピコレポート2023
発行日：2023年6月

編集方針

エフピコらしさを皆様にご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。

本レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン（2018年）」、国際統合報告フレームワーク（IIRCフレームワーク）、および「価値協創ガイダンス2.0」を参考にしました。

対象期間：2022年4月1日～ 2023年3月31日

対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

社　訓　|　Motto

1. 責任
2. 自信
3. 和
4. 忍（がまん）
5. 健康

なかでも「忍（がまん）」は創業者である小松安弘が経営における信念としていた言葉であり、調子のよい時こそ自分を律して“がまん”をすることが大切であると考えていました。幾多の試練を乗り越えて会社を成長させた小松の経営哲学が表われています。

経営理念　|　Mission

「現場主義」「顧客第一主義」に則り、

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」

「どこよりも競争力のある価格で」

「必要なときに確実にお届けします」

エフピコグループが目指すもの　|　Vision

<食品トレー・容器メーカーとして>

持続可能な社会の構築

「エフピコ方式のリサイクル」をさらに発展させ、サステナブルな社会を実現します。

安心・安全で豊かな食生活の創造

新たな価値を提供する製品を開発し、豊かな食生活を実現します。

「必要なときに確実にお届けする」インフラの確立

日本全国を網羅する生産・物流の拠点とSCMシステムによる無駄のない生産・物流計画により、製品の安定供給を実現します。

<社会の一員として>

経営基盤の強化

従業員を含むすべてのステークホルダーに、
「いい会社」と認められるよう、あらゆる満足度の向上を実現します。

地域社会との共生

コミュニティへの参画など、各種地域社会活動に取り組み、
生きがいのある社会の実現に寄与します。

エフピコの価値創造プロセス ｜ Value Creation

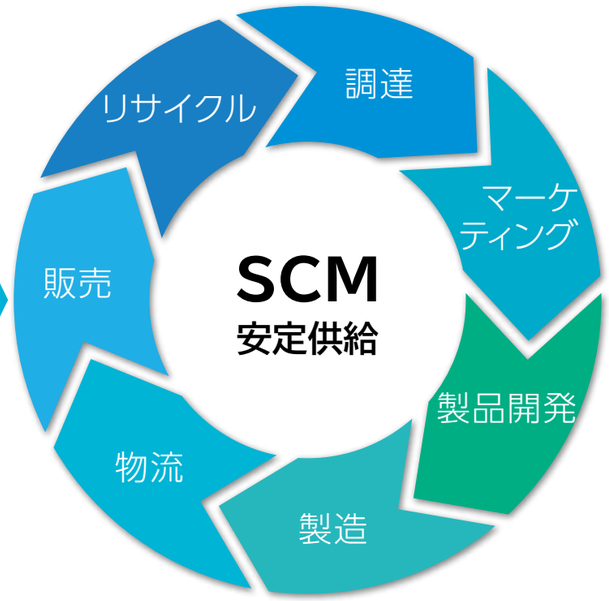
食品容器の製造、販売、リサイクルを行っているエフピコグループは、一連の事業が繋がるバリューチェーンを通じて様々な価値創造を続けています。

エフピコグループは、豊かな食文化の創造とともに持続可能な社会の構築に大きな役割を果たしていくことを目指し、取り組みを進化させます。

経営資本(2023年3月期)

財務資本	安定した財務基盤	
	資産合計 **2,986**億円	自己資本比率 **46.7**%
製造資本	全国の生産・物流・リサイクルネットワーク	
	設備投資額 **308**億円	生産工場 **20**工場
知的資本	最先端の研究設備を完備した総合研究所	
	研究開発費 **12.9**億円	特許件数 **118**件
人的資本	適材適所で活躍する多様な人材	
	連結従業員数 **4,876**名	障がい者雇用率 **12.5**%
社会関係資本	4者一体のエフピコ方式リサイクルの拡大	
	使用済み容器回収拠点数 **10,500**ヶ所	プラスチック資源回収量 **91,400**t
自然資本	太陽光発電導入など環境負荷軽減	
	CO_2排出量 約**22.6**万t	エコ製品販売によるCO_2削減量 約**17**万t

価値を創造し続けるバリューチェーン



理念・ビジョンに沿った事業展開

社訓　経営理念　ビジョン

エフピコグループが生み出す価値

経済的価値

	2023年3月期		目標
◎売上高	**2,112**億円	→	**3,000**億円
◎経常利益	**173**億円	→	**300**億円

事業の拡大

◎付加価値を提供する製品 ▶ P.16、30、45
◎新マーケットの発掘 ▶ P. 27
◎生産・物流ネットワークの構築 ▶ P. 46

環境・社会的価値

◎リサイクルによる地上資源循環 ▶ P. 37、43
◎エコ製品の販売によるCO_2排出量削減 ▶ P. 41
◎「エフピコ環境基金」を通じた取組み ▶ P. 58
◎障がいのある人材の活躍 ▶ P. 49

＋

マテリアリティへの取組み ▶ P. 39、40

食品容器メーカーとして

持続可能な社会の構築

安心・安全で豊かな食生活の創造

「必要なときに確実にお届けする」インフラの確立

社会の一員として

経営基盤の強化

地域社会との共生

「現場主義」「顧客第一 主義」を徹底し、「もっとも高品質で環境に配慮した製品 を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確 実にお届けする」使命を果たしてまいります。

代表取締役会長
（兼）エフピコグループ代表
佐藤守乙

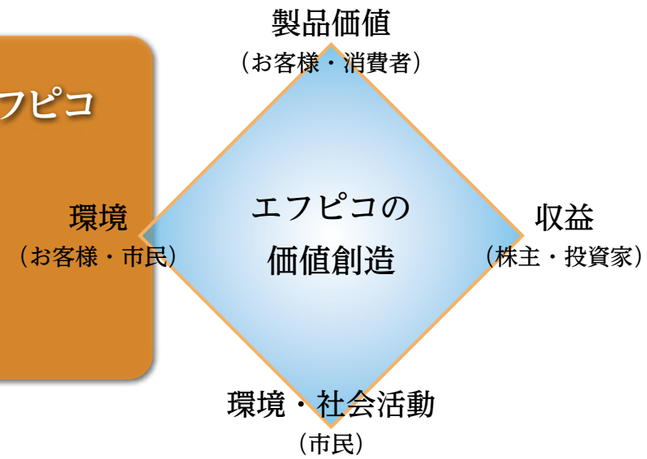
●創業60周年を迎えて

エフピコは2022年7月に創業60周年を迎えました。60年という長きにわたりエフピコが存続、発展してこれましたことは、ひとえにお客様を始めとするステークホルダー全ての方々のお陰であると感謝の念に堪えません。60年を通過点としてさらなる年月を重ね、70年、80年、そして100年へと歩みを進めてまいる所存です。

エフピコは経営理念として「現場主義」「顧客第一主義」を大切にしてきました。食品容器製造・販売を行う私たちが果たすべき最大のミッションは、商品が売れる製品（食品トレー・容器）を提供することです。そのためには、何が必要とされていてそれは何故なのかを突き詰めなければなりません。ニーズは現場にあります。スーパーマーケットやコンビニエンスストア、惣菜店などの売り場を何度も訪問し、直接お話を伺って食品容器に求められていることが何なのかを探り出します。そしてそのニーズを満たす製品を開発、製造していきます。私たちは現場に立つことで課題を見出し、同じ目線で課題解決の糸口を探し、解決してきました。こうしたことの積み重ねにより60年間成長を続けることができたのではないかと思っています。

また、メーカーとして一番大切なことは安定供給です。直近では、関西ハブセンターの立ち上げが完了し、何事もなく供給を開始いたしました。この当たり前のことを当たり前にやることの裏側には多くの社員の多大な努力があります。そのことは常に忘れてはいけないと思っています。

食品容器の製造･販売を行うエフピコの価値創造は多岐にわたり、様々なステークホルダーと繋がっています。



●“製品価値”の創造･提供

求められる製品価値を生み出すこと ― これが食品容器を製造･販売するエフピコが常に挑戦していることです。容器には、鮮度を保つ断熱性や汁漏れしにくいなどの「機能」と商品の魅力を増し値ごろ感などを伝える「働き」があります。これまでに開発してきた容器の機能や働きは、現在では当たり前になっているものも多くあります。例えば容器に中皿を付けて麺やおかずを載せ、電子レンジで温めた後にその下のスープと一緒に美味しく召し上がっていただくための二層構造の容器です。今ではよく見る商品ですが、これは「こういう売り方をしたい」という要望を形にした価値創造の一例です。

こうした製品開発は食品売り場の現場で得た情報や経験が基になっており、現場で起きていることはその時々の社会の潮流の表れであると言えます。中食産業の発展、環境意識の高まり、単身世帯の増加など、それぞれの時代の潮流が食生活でのニーズに反映され、そのニーズを満たすことが食品容器に求められています。エフピコはこうしたニーズを現場でいち早く察知して行動し、製品開発から製品化までのプロセスを短期間で遂行する組織を構築･整備しています。2014年には、最新鋭の研究機器を完備し次世代の製品開発を行うエフピコ総合研究所を新設しました。

当社製品を使っていただくことでお客様自身の商品が売れる、と想像できれば、当社製品を選んで頂けると思っています。また、社会の潮流からニーズを先取りした付加価値を製品に加えていくことも重要です。このようにエフピコの使命は、社会に認めていただける「機能」や「働き」を持つ製品を生み出すことと考えています。

スーパーマーケットのバックヤードでの作業ストレスを減らし、高齢の方でも開け閉めし易い「あんしん嵌合®」容器。

使用済み容器をリサイクルして製造した「エコトレー®」。様々なシーンでご活用いただけるよう、多彩なデザインを用意しています。

コロナ禍に短期間で開発したデリバリーに便利な「連結嵌合」容器。配送中でも商品がバッグの中でバラバラになりません。

●リサイクルを始めとした“環境”への対応

使用済み食品トレーのリサイクルは地元福山市の数店のスーパーマーケット様の協力を得て、1990年に始まりました。30年以上の時を経て今では全国のスーパーマーケット様の10,500店舗に回収ボックスが設置されるまでに広がっています。2011年からは使用済みのPETボトルから透明容器へのリサイクルも開始しました。その結果、毎年約8～9万トンの使用済み容器・PETボトルを原料として食品トレー・透明容器を製造しており、2022年度ではバージン製品を製造した場合と比較して約17万トンものCO_2削減につながっています。

この“トレー toトレー®”、“ボトルto透明容器™”の使用済み食品容器･ PETボトルのリサイクルのさらなる拡大のため、小学校での出前授業やスーパー店内でのPR活動なども行い、消費者の方々やスーパーマーケット様に、より一層の協力を呼び掛けるとともに、当社製品においてもエコ製品のエコマーク表示や、「ペットボトルリサイクル品」の刻印を通じて使用済み容器が再び新たな容器にリサイクルされていることをお伝えしています。

2022年11月には、中国CGCグループ様とのリサイクルによるCO_2削減に向けた協働活動の開始を発表し、傘下の各スーパーマーケットとの協力関係を強化することを宣言しました。より多くの使用済み食品容器･ PETボトルを回収してCO_2削減を進めていくために、“お店で使用･販売した食品トレー･ PETボトルは、そのお店で資源として回収し、トレー･食品容器に再生してそのお店で積極的に使用する”、お店を発着点としたリサイクルの「ストア to ストア™」の協働活動を大きな起爆剤にしていきたいと考えています。現在、当社製品販売重量に対する使用済み製品※とPETボトルの回収重量比率は44%ですが、これを50%以上に増やしていきたいと考えています。これは世界的に見ても誇れる数字だと思います。

自社のCO_2の削減については、2022年に関東八千代エリアと中部エリアにおいて太陽光発電設備の運転を開始しました。さらに2022年に完成した関西工場･関西ハブセンターでも2024年3月に稼働を開始予定です。これにより、再生可能エネルギーでエコトレーの再生原料を生産することが可能となります。その結果、石油由来製品と比較したエコトレーのCO_2排出削減効果は現状の30%から37%に上昇する見込みです。

※回収は他社メーカーの製品も行っています。

回収ボックスは全国ほとんどのスーパーマーケットで見るようになり、日本の文化のひとつとして定着しました。

共同宣言記者発表で（株）中国CGC池田社長（左）、（株）フレスタ宗兼社長（中）と共に。

6つの工場、3つの物流施設、1つのリサイクル関連施設が集積した関東八千代エリアでは2022年3月に太陽光発電設備の運転を開始しました。2022年10月には中部エリアでも太陽光発電の運転を開始しています。

●“環境・社会活動”

2020年に「エフピコ環境基金」を創設し、環境問題に対してさまざまな角度から活動をされている団体の助成を始めました。現時点で延べ33団体に対する助成を行っています。例えば「海洋プラスチックごみ問題」について考えた時、使用済み食品容器の回収・リサイクル以外にも地域の皆様との協働でできることを進めたいとの思いからこの基金創設に至っています。

またエフピコはユニバーサルスポーツであるフロアホッケー活動を推進しています。フロアホッケーは障がいの有無や年齢、性別などの違いを超えて誰もが楽しむことのできる競技です。2010年から活動を始め、今では全国９拠点において障がいのある社員とない社員が同じチームメートとして参加する13のユニバーサルチームが活動しています。さらに大会※スポンサーになるとともに、多くの社員がスタッフとして大会の競技運営をサポートしています。

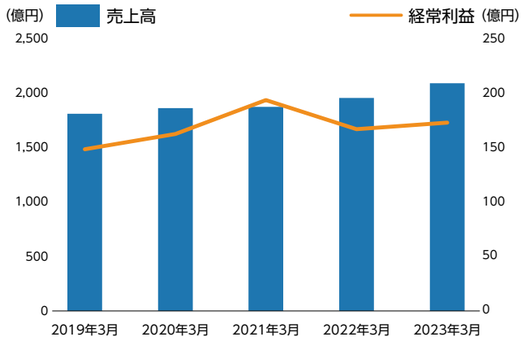
※全日本フロアホッケー競技大会、ユニバーサルフロアホッケー西日本大会

人材定着に向け、社員への還元を含めた投資をしなければ、企業として生き残れないと考えています。

●企業の成長と発展は継続的な“収益”から

近年、社会情勢は急激に変化を続けています。原料や電力料金高騰に対しては、ご理解を得て価格改定をさせていただきました。これからの人手不足の時代には、優秀な人材を確保し、その人材を定着させなければ企業として生き残れないと考えています。当社グループも2023年４月より生産・物流現場で働く社員の給与水準を平均10.7%引き上げる決断をしました。長期的な観点からも、継続して収益を上げ、社員への還元を含め人材確保のため人材への投資が必要でしょう。

市場の変化への対応に関して申し上げますと、昨今の冷凍市場の拡大による冷凍食品へのニーズの高まりに呼応した製品の開発に注力しています。既にトップシール（容器上部が蓋ではなくシール）対応の製品も製造・販売しています。冷凍食品は食品ロス問題への対策のひとつとしても注目されており、今後さらに発展していく市場になると期待しています。大切なのは何に対しても常にフレキシブルに対応していくこと。この柔軟性を持っていれば、会社の成長と発展は続くと考えています。



●「いい会社」

様々な企画で会社を盛り上げた60周年プロジェクトメンバー

エフピコでは「いい会社」を合言葉に、「いい会社」とは何かを考えることからスタートし、社員全員で働きやすい会社、働き甲斐のある会社、安定性・将来性のある会社など「いい会社」の実現を目指しています。「いい会社」の定義は千差万別であり、それぞれの社員が何を一番重んじているかによって異なりますし、私自身も「いい会社」を定義しておりません。それでも社員一人ひとりの声に耳を傾けることで、少しずつでもいい方向に会社を進めていきたいと思います。そういう努力をする会社とそうでない会社は５～ 10年で大きな差が出てきます。後で振り返ってみて、「ここが良くなった」「ここが改善された」と皆で言えるよう、働く環境の整備に投資をしていくつもりです。

毎年社員が提出するアンケートの質問項目に「佐藤代表へ伝えたいこと」という項目があり、提出いただいた全ての意見に目を通しています。時間単位の有給休暇や育児時短勤務の拡充など、社員の意見から制度を整えたこともあります。このように、ひとつが達成できればその次、と環境を整えていき、全ての社員が各々の人生を豊かにできるよう企業努力を続けていくつもりです。

●2023年のテーマ『定着』

2022年は、「飛躍」をテーマに掲げ、関西の大型拠点の完成、マレーシアの容器製造企業への出資、冷凍食品市場に向けた容器の開発・製造・販売、グループ企業同士の合併など大型案件を進めました。また創業60周年を記念してマスコットキャラクターを初めてつくりました。それらを軌道に乗せるのが今年です。

今年のエフピコのテーマは「定着」です。大きな案件が完遂したからといって決して浮かれてはいられません。その後の、うまく軌道に乗せて成果を上げていく地道な努力を続けることの方が難しいのです。これは、社訓にある忍（がまん）にも通じる考え方です。全体を俯瞰して堅実に着実に事業を展開し、たくさんの価値を社会に提供していきたいと考えています。

エフピコグループの歴史 | Corporate History

創業者：故小松安弘

時代の流れ

- ・高度成長期
- ・大量生産によるスーパーマーケットの拡大
- ・販売方法が対面式から陳列式へと変化
- ・コンビニエンスストアが発展
- ・ファストフード、ファミリーレストランなどの外食産業が発展
- ・全国各地でゴミ廃棄、処理の問題が発生
- ・お弁当、惣菜などの中食産業が発展
- ・バブル経済/飽食の時代
- ・インターネットの普及が始まる
- ・グルメブーム
- ・世界的な気候変動対策が始まる
- ・SNSが広がり始める
- ・３Ｒ/循環型社会への機運が高まる
- ・ダイバーシティの推進
- ・労働力不足問題
- ・新型コロナウィルス
- ・インクルージョン社会の機運
- ・テイクアウト・デリバリーの増加
- ・フードロス問題

1960 | 1970 | 1980 | 1990 | 2000 | 2010 | 2020

1962

創業者である小松安弘が福山パール紙工（株）を設立。高度成長期の大量生産、大量消費を見据えて食品の販売に便利な存在となるであろうトレーの製造をスタート。

創業当時の社屋

1972

福山に配送センターを設置。7年後の1979年にはエフピコ物流（株）を設立し、本格的な自社物流をスタート。以降、全国各地に物流拠点を配置し、効率的な物流を展開していきました。

現在の物流センター（福山）

1976

自社製品の展示会「パールフェア」をスタート。お客様と密なコミュニケーションを取る「顧客第一主義」というコンセプトは現在の「エフピコフェア」へと続いています。

東京ビッグサイトで開催の現在のフェア

1986

発泡トレーの製造に障がいのある人材の活用を始めました。以降、雇用はどんどんと拡大し、現在グループ全体で約370人が働き、障がい者雇用率は12％を超えています。

（株）ダックスの設立時

1989

広島証券市場に上場。それに合わせて「株式会社エフピコ」とし、広島県福山市の会社から全国に事業を展開する企業へと成長する礎を築きました。

1990

消費者の方々、スーパーマーケット様、問屋様、エフピコの４者一体によるエフピコ方式リサイクルをスタートさせました。リサイクル製品のエコトレーは翌年、業界初のエコマーク製品に認定されました。

回収した使用済みトレーの選別（当時）

2000

インターネットとCD-ROMを活用したB to BのEコマースを開始。以降、この形態の販売は様々な改良と進歩を経て現在ではSNSと連動した展開も行っています。

2005

東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場しました。その後、2022年には東京証券取引所プライム市場へと移行しました。

2012

PET容器では世界初となる透明性、耐熱耐寒性、耐油性などに優れた“エコOPET容器”を製造・販売。この時期は他にも複数の自社オリジナル素材の開発・製造を行いました。

2014

福山本社の隣りにエフピコ総合研究所・人材開発研修センターを建設。ものづくりの拠点としての施設の充実を図りました。

2022

マレーシアのプラスチック製食品容器メーカー“Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.”の株式を40%取得し、アジア圏での第一歩を踏み出しました。

2023

兵庫県小野市にエフピコとしては初となる関西圏の大型拠点を建設。関西地方の大型商圏に対応する生産工場と物流ハブセンターの複合施設として2月に稼働開始しました。

製造・販売製品 | Products

汎用　サイズと色柄でさまざまな用途に活用が可能

エコトレー（リサイクル製品）

寿司　新鮮さを損ねず美味しさを食卓まで運ぶ

精肉　衛生的で肉の旨味や色味も引き立てる

クリアパッケージ　透明な容器が鮮度も美味しさも伝える

フードパック　衛生的で便利な機能を付加

その他　紙容器、鶏卵パック、フィルム製品など

鮮魚　新鮮な海の幸の魅力を引き立てる

米飯　サイズと色柄でさまざまな用途に活用が可能

惣菜　電子レンジ対応などで扱いやすい

催事　人が集まる楽しい催事に最適

デリバリー　様々なメニューの配達に適した容器類

エフピコ製品の主な特長

環境への配慮

●プラスチック使用量を削減した製品
製品の原材料使用量を削減するため、製造工程の見直しに加えて薄肉化、軽量化などの取組みを行っています。写真は見映えを変えることなく重さを67%削減した製品です。

●リサイクル製品
使用済みトレー・容器やPETボトルをリサイクルした「エコトレー」「エコAPET」「エコOPET」は、素材製造から廃棄までのライフサイクルの中で、リサイクル原料を使用しない場合に比べてCO_2を30%削減します。

断熱性の高い電子レンジ対応のマルチFP素材

電子レンジの加熱に適した耐熱性（110℃）を持つほか断熱性、保温性にも優れた容器。中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。

優れた耐油性と耐寒性のエコOPET素材

電子レンジ対応容器の蓋に使われる素材で、ソースやタレが付着したまま電子レンジにかけても穴があきにくい仕様です。また、冷凍自動販売機用の容器としても使用され、凍ったままで排出された時の衝撃にも耐える、割れにくい仕様となっています。

食品販売の作業効率やコストを考えた製品

人手不足、コスト削減対策で開発された容器です。例えば“ツマゼロ容器”は、ツマをなくすことで、その盛付時間とツマ代を丸ごとカットできる工夫がなされています。ツマが無くても見映えは損ないません。

高い輸送効率のコンテナサイズに適した容器

プロセスセンターの普及で輸送コストも増加傾向にあります。コンテナ内の積載効率を高めるための低蓋の設定や、容器サイズの見直しで対応容器を開発しています。

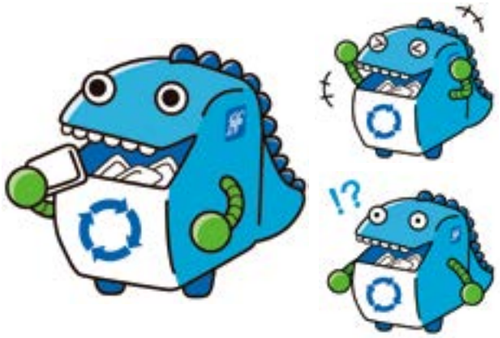
2022年

6月　経営新体制発足

第60回定時株主総会及びその後の取締役会において、佐藤守正（前代表取締役社長）が代表取締役会長（兼）エフピコグループ代表となり、安田和之（前専務取締役）が代表取締役社長となることが決定いたしました。

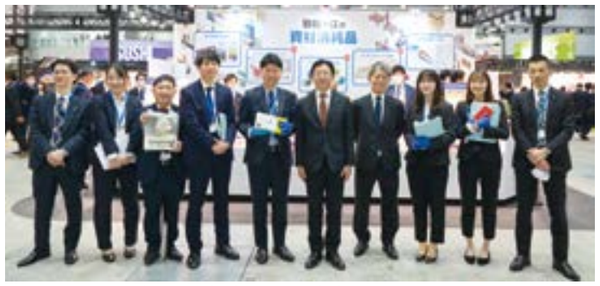
6月　初のマスコットキャラクター誕生

エフピコ創業60周年を記念して生まれたマスコットキャラクター「ピコザウルス」。グループ会社の社員とその家族から公募し、応募総数983件から一次、二次の選考を経て決定した愛らしいマスコットです。その風貌はご覧の通り、スーパーマーケットなどに設置のトレー回収ボックスをモチーフにしています。リサイクル事業のさらなる発展のため、様々なシーンで活躍中です。



7月　グループ会社合併で問屋機能を強化

2022年7月1日、エフピコ商事株式会社を存続会社としてエフピコみやこひも株式会社を合併いたしました。エフピコみやこひもの持つ販売網に、エフピコ商事が有する商品のマーチャンダイジング力及び商品調達力を注入し、顧客ニーズに応じた商品の販売を増やしていきます。



エフピコフェアに出展した新生エフピコ商事のメンバー

2022年4月 | 2023年3月

8月　マレーシアの企業を取得

2022年8月31日、マレーシアのプラスチック製食品容器メーカー Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.の株式を40％取得し持分法適用関連会社としました。海外進出についてはかねてより“良い機会があれば”とアンテナを張っていましたが、本件がエフピコとして初めての海外進出となります。同社はマレーシアにおいて業界No.1の地位にありますが、今後はエフピコの技術力とノウハウで東南アジアにおけるリーディングカンパニーに成長させていきたいと考えています。

11月　中国CGCグループ様他との共同リサイクル活動発表

2022年11月29日、中国地方５県でスーパーマーケットを展開する中国CGCグループ様（15企業、249加盟店舗）及び賛同環境団体は、エフピコ方式のリサイクルを協働して推進していくことを宣言しました。使用済み容器やPETボトルをリサイクルする「トレー toトレー®」及び「ボトルto透明容器™」をさらに推し進め、「CO_2削減1,000トン」を目指しています。

2023年

3月　関西大型新拠点誕生

2023年3月13日、兵庫県小野市に完成した関西工場及び関西ハブセンターの竣工式が行われました。この新たな拠点は敷地面積48,000m²と広大で、小野市を見渡す小高い丘にあります。大型拠点が関西地方に誕生したことにより、全国の配送センターから半径100km圏内で日本の全人口の約85％をカバーする物流ネットワークが完成しました。

エフピコが努力を重ね、発展させていること、達成したことの“今”をご紹介いたします

販　売

“ストア to ストア”

お店で使用・販売した食品トレー・PETボトルをそのお店で回収し、トレー・容器に再生してそのお店で積極的に使用する“ストア to ストア”は日々訪れるお店が発着点のリサイクルです。

中国CGCグループ様にもこのコンセプトにご賛同いただき、協働でのリサイクル推進活動を発表しました。

お客様との協働による社会的な環境意識の向上

関連ページ：P.10 / P.18

生　産

ポリスチレンの完全循環実現に向け研究中

技術的な要因でトレー以外のものにリサイクルしているカラー・柄トレーもトレーへと再生する“ケミカルリサイクル”を数年以内に実現すべく他社と共同研究を行っています。2025年に実現し、翌年には工場稼働の予定です。

エフピコが製造するトレーが繰り返し何度でも生まれ変わり、さらなるCO_2削減に繋がります。

再生可能な製品を増やし、さらなるCO_2削減

関連ページ：P.26

物　流

全人口カバー率85%

関西の大型商圏に対応する大規模拠点（生産工場と配送センターの複合施設）が2023年の年初に稼働開始したことにより、全国各地のエフピコの配送センターから半径100km圏内で日本の全人口の約85%をカバーする物流ネットワークが完成しました。

製商品の安定供給の精度を高め、「必要なときに確実にお届けする」という約束を守り続けます。

社会的責務を果たす製商品の安定供給

関連ページ：P.18 / P.46

人材育成

健康経営認定

「職場で健康プロジェクト」活動を推進し、社員の心身の健康向上を目指した様々な取組みを行っています。そうした活動が評価され、「健康経営優良法人」や「SPORTS YELL COMPANY」などの認定をいただきました。

2023
健康経営優良法人
Health and productivity

会社の財産である社員の健康を守り、共に発展を続けていくことを目指しています。

人材に投資し、社員の幸福度を向上

関連ページ：P.48 / P.60

エフピコの事業スタイル | FPCO's Way

付加価値の高い製品を安定供給するエフピコのバリューチェーンとその全プロセスを指揮するサプライチェーン・マネジメントシステムをご紹介いたします。

代表取締役社長
安田和之

2003年にサプライチェーン・マネジメントシステム（SCM）を立ち上げるための準備室長になって以来、私はエフピコのものづくりの中心的な役割を果たすSCM部の責任者を務めてきました。SCMは最も効率的な生産と物流の計画を立案し、それを実行するための指示を各部署に伝達する、文字通りエフピコの頭脳であり心臓部です。今年度、SCMには関西の大型拠点が加わって順調に稼働しており、さらなる効率化が見込まれます。また、会社の財産としての人材育成にも注力しており、組織の成長との両輪でエフピコのさらなる発展を目指しています。

エフピコの未来をつくる関西の新拠点

関西の新拠点の誕生はエフピコがさらなる成長を目指す上で不可欠でした。製商品の安定供給はエフピコが掲げるミッションのひとつですが、これまでの関西の大きな商圏への配送は、福山ハブセンターを拠点として行っており、長い走行距離の短縮が課題でした。2023年1月の新拠点の稼働開始により、関西圏の納品は配送車両の走行距離と時間が半分以下になり大きな効果が実現しています。安定供給という意味でも、災害などの非常時における納品のリスクが低くなります。さらに納品までの距離と時間の短縮により、ドライバーの拘束時間を大幅に削減することが可能となり「2024年問題」※への対応に大きく寄与します。

関西の新拠点が生み出す様々なメリットは、SCMによる生産・物流の計画立案に大きな自由度を与えます。ものづくりと製商品配送の要としてのSCMがさらに進化を遂げ、業務の効率を上げることでエフピコはさらなる成長を目指していけるでしょう。

※「2024年問題」：2024年1月からトラックドライバーの年間時間外労働時間の上限が960時間に規制されることによって生じる様々な問題。

人材育成とのバランスの良い発展

「2024年問題」でクローズアップされているドライバーの労働力不足だけでなく、エフピコが持続的に成長するために、人材の確保と育成が必要と考えています。組織体制の構築と強化の責任者としての私の役目は、人手不足を補うための生産や物流分野でのロボット化や業務全般の効率化、そして会社の財産としての人材の育成です。

人材の確保に関しては製造・物流現場における給与水準のアップや年間休日の増加など、待遇面での改善を既に実行しています。人材の育成についても新しいプロジェクトを準備しており、2023年の夏にはスタートさせる予定です。その核となるのはジョブローテーション（部門間の配置変え）の推進です。ひとつの仕事に専心してスペシャリストになることも大事ですが、スペシャリストとしての知識や経験を持ちながら、ジェネラリストとして業務を俯瞰できる視野の広さも人としての成長を促します。私自身も過去にいくつかの部署で仕事を覚え、その経験が自分を成長させてくれたと感じています。効果的なジョブローテーションを行い、ジェネラリストとしてリーダーシップをじっくりと身に着けて欲しいというのがこのプロジェクトの狙いです。

関西の新拠点を始めとするハード面と人材育成などのソフト面での両方をバランス良く発展させ、会社の成長の上手な舵取りをしていきたいと考えています。

エフピコのサプライチェーン・マネジメントシステム

エフピコは食品容器の製造、販売、リサイクルを通して様々な価値創造を行っていますが、そのプロセスは「調達」「マーケティング」「製品開発」「製造」「物流」「販売」「リサイクル」という7つの部門で構成されるバリューチェーンにより展開されています。このバリューチェーンをより確実で効率的に回す上での司令塔がSCMの存在です。

その役割は、販売計画及び在庫の量を基にどの製品をどのタイミングで、どこの工場でどれくらい製造するか、そしてどこの配送センターへ運ぶかなどの計画策定と実行指示を行い、その実績と計画を検証・分析して計画の精度を高めることにあります。

さらに計画の精度を上げるために人工知能（AI）を導入しています。例えば一年を通してどの時期に最も製品の需要が高まるかという予測を行う上で、AIは非常に役立ちます。そして、販売の現場を見続けている営業スタッフ、製品を設計する製品開発スタッフ、様々な調整を行いながら納期を守る生産工場スタッフなどの経験値とAIの予測の両方を用い、人とコンピュータが補完し合って最適な形でサプライチェーンを動かしています。

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」というお客様への約束を守るため、確実にバリューチェーンを動かし、製品の安定供給を絶え間なく実践しています。

〈 SCMが果たす役割 〉

データインプット→生産計画策定

主に販売部門からの情報を基に生産計画を策定

- 一年を通しての販売予測
- 資材調達に関する要因
- 生産に関する要因
- 物流・納品に関する要因

製造に関する指示

- 倉庫間で在庫を移動する横持ち
- 製品製造のための工場間の金型移動
- いつどの工場でどれだけ製造するかのスケジューリングなど

実績の分析→フィードバック

- スケジューリング通りの生産だったか
- 改善点や効率化の洗い出し

エフピコのバリューチェーン（価値創造）

エフピコのバリューチェーンはお客様の食品売り場からスタートします。製商品を販売する営業担当が現場で発掘するお客様のニーズに、マーケティング部門が調査・分析する社会のトレンドを加味し、製品開発部門がアイディア・ニーズを製品の設計図という形にします。そして設計図に沿ってその製品製造に必要な素材を調達部門が納入。製造部門は製品開発部門とすり合わせをしながら工場での製造を行います。出来上がった製品は物流センターへと移動し、お客様の元へと届けられます。さらに、販売・使用後の使用済み製品は消費者の方々の協力を得てスーパーマーケットなどで回収され、エフピコが運搬・リサイクルし、再び製品として販売しています。製品のライフサイクルとしては、調達、マーケティング、製品開発、製造、物流、販売、リサイクルとなり、使用済み製品が再び原料の調達となって循環の輪が完成します。

エフピコのバリューチェーンが生み出しているのは、製品の安定供給、製品の機能と働きという食生活にかかわる価値、そしてストアtoストア（=エフピコ方式リサイクル）によるCO_2削減という環境面での社会的価値など多岐にわたっています。詳しくは、以降のページで是非ご覧ください。

調達

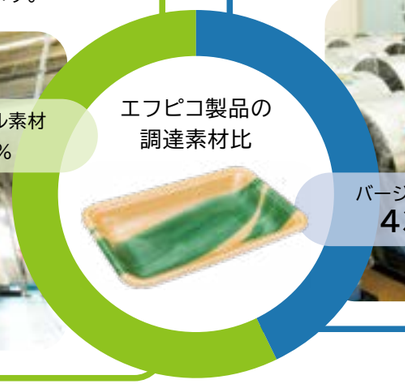
PROCUREMENT

製品製造のために何を、いつ、どれだけ、どのような形で調達するか ― 調達先が自社でもサプライヤー様でも情報収集、調査、検討、検証を怠らず、常に最適な答えを目指しています。

エフピコが容器製造のために使用する素材は大きく分けてバージンとリサイクルの２つになります。どちらも厳格な基準のもと調達されています。

●リサイクル工場でのダイレクト調達

リサイクル工場で製造したペレットは同敷地内の生産工場へとパイプ輸送されるなど、一連のフローの中で素材の調達が行われます。



●安全で社会的に適合した素材の調達

コンプライアンスを遵守した調達業務を明文化している「CSR調達方針」に沿って行っています。

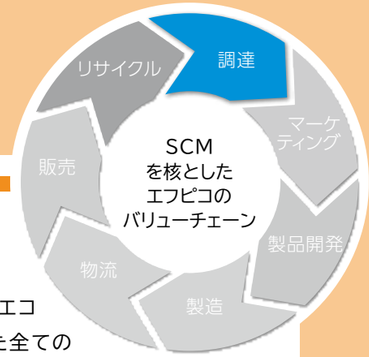
●新たな技術によるリサイクル素材調達の拡大

エフピコのリサイクル技術は日々進歩しています。より高度な技術により、リサイクルできる対象製品が増え、調達可能な素材も増産できます。

●サプライヤー様との情報共有・関係強化

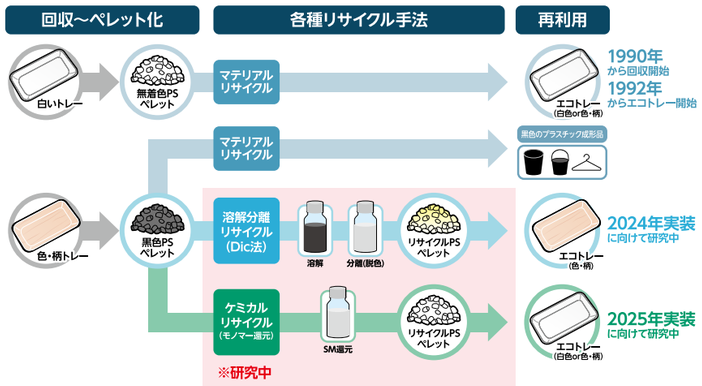
生産設備、責任部署などサプライヤー様情報の見える化を徹底しています。

紙、パルプ、バイオ素材を使った非石化型素材の使用や新素材の使用の検討なども継続して行っています。

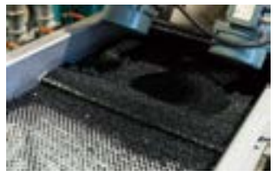


●リサイクル素材の調達

エフピコによる使用済み容器の回収は1990年にスタートし、再生した製品を「エコトレー®」として販売したのは1992年からでした。その当時でも回収された全ての発泡トレーを持ち帰っていましたが、エコトレーへとリサイクルできるのは白トレーのみであり、色や柄のトレーはおもちゃなど他のプラスチック製品の再生原料となっています。しかし現在、色・柄トレーもトレーへとリサイクルするための技術を他社と共同研究中であり、数年以内には実現の予定です。色・柄トレーは発泡トレー製品の約4割を占めており、調達部門はこの技術開発を強力に推し進めています。



使用済み白トレーから再生したペレット（原料）



使用済み色・柄トレーから再生したペレット（原料）

●バージン素材の調達

バージン素材の調達においては、自然災害などのリスクに対応したBCP（事業継続計画）を実現するため、サプライヤー様との情報共有を徹底しているほか、近年では海外のサプライヤー様も含めた供給体制を整えています。また、素材が社会的に適合した方法で調達されていること、公正・透明な方法で選定されていること、法令遵守を履行しているサプライヤーかどうかなどを明確にするため、「CSR調達方針」に沿った業務を行っています。

1. 品質本位
お客様にとって価値ある安心・安全で高品質な製品・サービスをご提供するにあたり、調達活動は当グループの「品質方針」に沿って品質と安全を最優先し、さらにコストについても重視いたします。

2. 公正な取引
経済合理性、適正な品質、納期の厳守、社会規範の遵守、社会的課題への配慮、環境配慮などを総合的に勘案し、公正、透明な方法でサプライヤーを選定します。正当な理由なく、特定の取引先に利益を供与したり、不当な不利益を課すようなことはしません。

3. 法令等遵守
調達活動においては、法律及び社会規範を尊重し、いかなる場合もこれらに違反しません。反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求は拒絶します。

4. 社会的課題への配慮
基本的人権を尊重し、労働安全衛生に配慮し、不当な差別や強制労働や児童労働などの人権侵害を行わないサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

5. 環境への配慮
当グループの「環境方針」に則り、環境負荷低減の取り組みを推進し、気候変動、生物多様性などの環境問題の抑制や緩和に資するサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

6. サプライヤーとの協働
調達にあたって社会的課題や環境への配慮をサプライチェーンにわたって実践するため、サプライヤーと長期的な信頼関係を築き、共存共栄を図ります。サプライヤーと協働しリスクの適切な管理と未然防止を徹底し、社会と経営への影響を回避する取り組みに努めます。

マーケティング

MARKETING

年に一度開催する「エフピコフェア」はお客様に提供する様々なソリューションの集大成です。容器の活用と売り場づくりを通してお客様のお悩みを解決するためのノウハウを提供しています。

マーケティング部門に課せられた最大の役割は情報を価値に変換することです。そのために重要なのは情報の質と量、そこから様々な形態の価値を見出していくための視点や知見、そして地道な現場訪問などです。

❶情報収集：
全営業スタッフの日報や現場で採用された課題解決に役立つアイディア・施策の事例報告に目を通す。

日報は全国の営業スタッフが現場で発見・取材した様々な内容が詰まった貴重なアイディアの種です。

❷分析：お客様が抱える“現場の課題”を抽出。それらの原因を分析し、仮説を立てる。

❸現場訪問：販売部門の営業スタッフに同行して現場を訪問。お客様に直接お話を伺ったり、現場を観察したりなど。

❹提案：お客様が抱える課題を解決するための容器の機能や働きのアイディアを製品開発部門へ提供。

❺企画：製品の販売に繋げるための各種企画を立案し、販売部門をサポート。

製品開発部門

販 売 部 門

サプライチェーン・マネジメント システム（SCM）

●市場環境・動向を基にした各種提案

最近のテーマは（1）コロナ禍や原料高騰による市場の変化、（2）技術の進歩による冷凍市場の拡大、（3）環境意識の高まり、（4）現場の人手不足対策によるPC（外部加工工場）化です。それぞれの課題解決になる容器や売り場づくりのヒントは、営業スタッフを通じてお客様へ提供されています。

今年度の「エフピコフェア」でもこの4つのテーマを取り上げ様々な角度からのソリューション展示を実施しました。

●マーケティング部門主導による各種プログラムの実施

販売部門のサポート役としてのマーケティング部門が果たす役割は様々です。営業スタッフがお客様のために使う提案書や各種印刷物の制作もマーケティング部門の担当です。さらにアクティブなサポートプログラムとしては、お客様や営業スタッフを対象とした勉強会です。収集・分析した情報を基に商品の売れ行きを上げるための容器の活用法、バックヤードでの作業を効率化する工夫、その他様々なアイディアを整理してプレゼンテーションします。こうした勉強会は頻繁に実施しています。

年に一度、東京ビッグサイトで開催する「エフピコフェア」もマーケティング部門が中心となって準備を行っています。毎年食品販売業界の旬な話題を取り上げ、多種多様なソリューションをお客様に提供するエフピコの一大イベントです。スーパーマーケットの売り場を再現した展示がメインとなりますが、その他にも自社物流システム、グループ会社による問屋機能の紹介、サステナビリティへの取組みなど、エフピコグループがお客様に提供できる全てを知っていただく機会としています。また、マーケティング部門がプロデュースする他社様とのコラボレーション企画「チームX」もフェア内で展示しています。エフピコの容器とベンダー様などの食材の組み合わせによる相乗効果の成果を紹介しています。

製品開発

PRODUCT DEVELOPMENT

「エフピコ総合研究所」は福山本社の正面に製品開発の中枢施設として2014年に誕生しました。効率化された作業工程により、毎年1,500アイテム前後の新製品を開発しています。

製品の研究開発ではバリューチェーンの他のどの工程よりも、他部門との情報交換を行っています。製品の価値を創造する工程として、その役割は多岐にわたっています。

販売部門

お客様のニーズをストレートに伝達

調達部門

製品の素材に関する情報の確認

マーケティング部門

市場動向を反映したアイディアや情報を提供

物流部門

製品運搬上の改善点などの伝達

製造部門

工場での生産工程における微調整

❶製品のイメージやアイディアをスケッチや立体模型などでより具体的な形に。

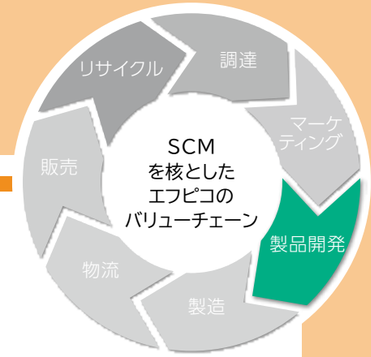
❷ラフスケッチや立体模型などから、さらに具体的なデザイン起こし → 検討・調整作業

❸設計図の作成と素材の選定。

❹製造開始時における工場での生産工程作業の立ち会い。→ 調整作業（必要に応じて）

素材、製造法、金型など製品製造に関する情報の伝達

サプライチェーン・マネジメント システム（SCM）



エフピコが開発した製品の機能と働き

●電子レンジ対応

電子レンジの加熱に適した耐熱性を持つほか断熱性、保温性にも優れた容器を多種開発しています。

●冷凍食品対応

耐寒性が高く強度を持つオリジナル素材を使用し、耐熱温度130℃で冷凍からレンジ加熱可能にしています。

●複数の容器を連結

デリバリーにおける容器輸送の利便性と効率を追求し、商品が崩れにくいように複数の容器をしっかりと連結する工夫。

●耐油性

耐油性に優れた透明容器をつくっています。MCT油脂等により脆化せず、破損しません。電子レンジで温惣菜をそのまま加熱することも可能。

●環境への配慮

使用済み容器をリサイクルしたエコトレー®やPETボトルをリサイクルした透明容器などの環境対応製品はエフピコオリジナルです。

●製品の軽量化

非発泡素材を低発泡素材に変えることによりプラスチック使用量の削減に繋げ、製品の軽量化を実現しています。

●開けやすく閉めやすい

容器が傾いても水分がこぼれない十分な気密性を実現するとともに、閉まった時にパチンと音が鳴り、外れ難く開けやすい構造を実現しています。

●多彩なメニューに対応

ご飯類と汁気の多いおかずを別々に容れるなど、それぞれの具材の美味しさや食感を損ねることなく提供できます。

●安全性

容器の蓋の縁にギザギザを付けて、開け閉めの際に手が切れないようにした工夫。容器に施した安全性の一例です。

安全・安心な食品容器製造のための試験と検証

製品の研究開発ではアイディアを製品という形にする業務の他、様々な研究や開発も行っています。耐寒・耐熱・耐油など素材の耐性を高める研究、同じ強度でより薄い素材の開発、容器の透明性を高めるための研究などです。また、使用済み製品をリサイクルして製造したペレットや外部サプライヤー様から納品された素材の品質と安全性の試験を実施しています。新素材の開発も研究開発部門の担当です。

製造

MANUFACTURING

エフピコの生産工場として最大規模となった関西地方初の大型拠点。これにより、エフピコの全国的な製造ネットワークが完成しました。

製品製造に関し、SCMと緊密に情報交換を行っている製造部門では、生産の効率化を第一に目指しています。そのための施策としてはロボット化、省人化に重点が置かれ、毎年のように新しい取組みが導入されています。また、他部門との連携も効率化アップの重要な要素です。

サプライチェーン・マネジメント システム（SCM）

2週先の生産計画を当該工場に伝達

実際の生産実績をフィードバック

製品開発部門

製品製造に関する全ての情報（素材、使用金型、製造方法など）

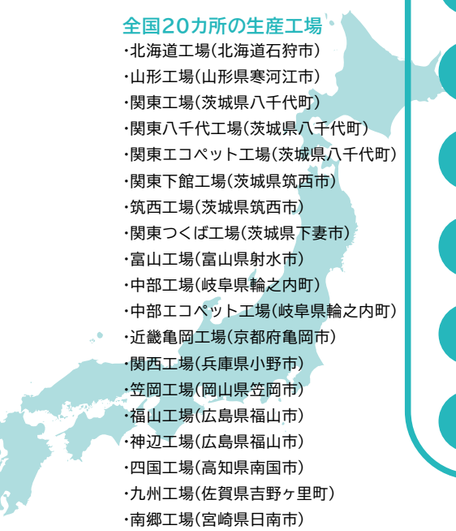
- ❶生産ラインに素材設置
- ❷押し出し・成形・型抜き
- ❸検　品
- ❹包　装
- ❺箱詰め・テープ留め
- ❻計　量
- ❼倉庫へ移動

❶～❼までの作業のほとんどはロボットにより自動化されており、1ラインあたりのスタッフ数は平均約2.5人です。しかし、❷と❸の工程では製造ミスをなくし、機械をよりスムースに動かして効率化を高めるため人の手による機械の調整を行います。ノウハウを蓄積し、次の世代へと伝えていく大切な作業です。

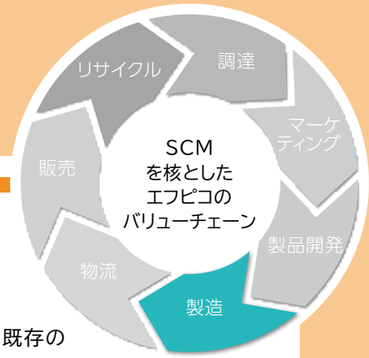
物流部門

同敷地内もしくは他地域の配送センター

全国20カ所の生産工場



- ・北海道工場（北海道石狩市）
- ・山形工場（山形県寒河江市）
- ・関東工場（茨城県八千代町）
- ・関東八千代工場（茨城県八千代町）
- ・関東エコペット工場（茨城県八千代町）
- ・関東下館工場（茨城県筑西市）
- ・筑西工場（茨城県筑西市）
- ・関東つくば工場（茨城県下妻市）
- ・富山工場（富山県射水市）
- ・中部工場（岐阜県輪之内町）
- ・中部エコペット工場（岐阜県輪之内町）
- ・近畿亀岡工場（京都府亀岡市）
- ・関西工場（兵庫県小野市）
- ・笠岡工場（岡山県笠岡市）
- ・福山工場（広島県福山市）
- ・神辺工場（広島県福山市）
- ・四国工場（高知県南国市）
- ・九州工場（佐賀県吉野ヶ里町）
- ・南郷工場（宮崎県日南市）
- ・鹿児島工場（鹿児島県鹿児島市）



進む生産工場でのオートメーション化

2022年に建て替えた中部第一工場と今年稼働がスタートした関西工場では、既存の作業オートメーション化に加え、ロボットなどによるさらなる省人化のシステムを導入しています。写真❶は製品の成形に使う金型や色・柄トレー用のフィルム（白地に貼るもの）を格納した巨大な棚です。ボタン操作によりこの棚から別フロアの製造ラインのバックヤードまで、コンベアとAGV（無人搬送車）により金型やフィルムを移動。❷は一旦、バックヤードに設置された金型をAGVに載せているところです。AGVはあらかじめ設定した工場内のルートを移動して（写真❸）、金型を使用するラインの前に到着（写真❹）。最終的には金型を製造ラインの当該場所に置き（写真❺）、自動でバックヤードへと戻っていきます。それまで人の手に頼っていた一連の作業の省人化により、大幅に作業効率を上げることが可能になっています。

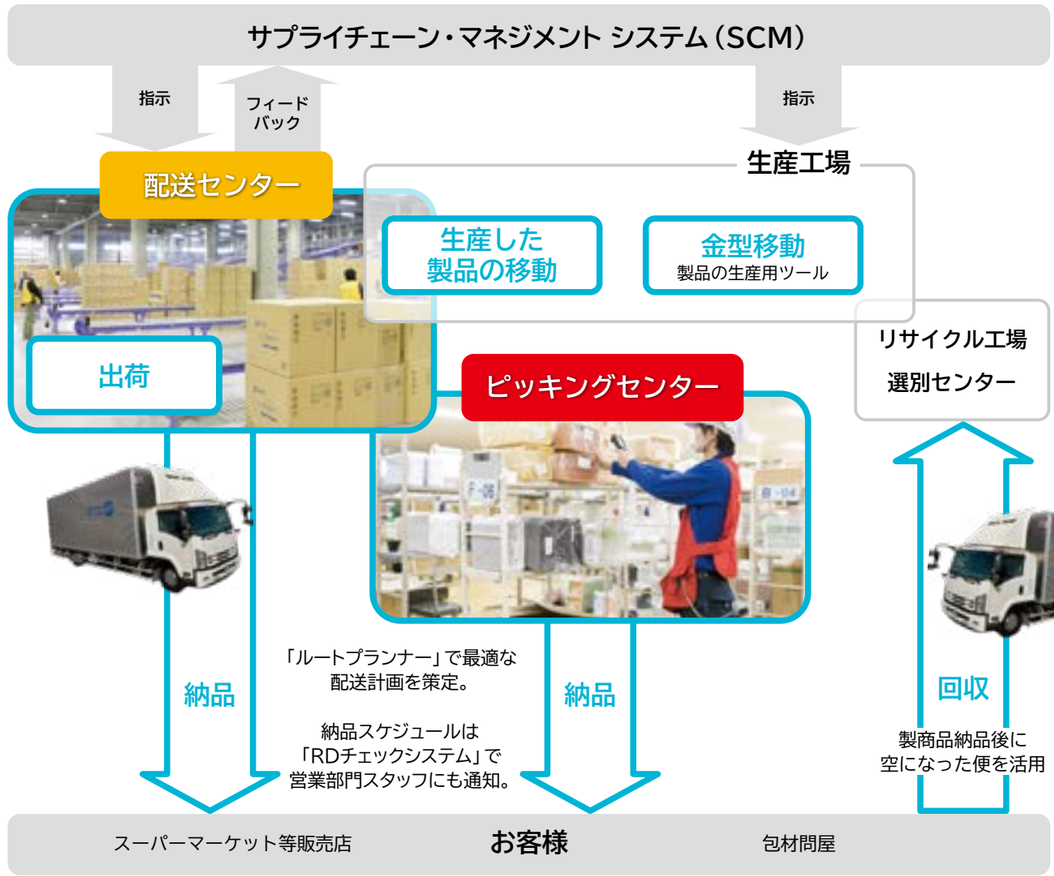
製造工程の中でもうひとつ新しく導入したロボットが、ロールシートを製造機械へと送り出す装置です。写真❻はシート素材のロールをAGVが生産ラインのスタート地点へと設置するところ。設置されたシートはこれまで人の手でラインに送り出していましたが、写真❼のアームロボットを新たに導入しました。その後の工程（写真❽）は従来通りに成形、型抜きとなり、検品（写真❾）後の包装・箱詰め（写真❿）・テープ留め・別フロアへの移動（写真⓫）・計量（写真⓬）も全て機械により省人化されています。

物流

LOGISTICS

エフピコがお客様に約束する安定供給の要は正確な在庫管理と確実で迅速な配送です。倉庫業と運送業の両方を自社で展開するエフピコは、自信を持ってその約束を守り続けています。

自社物流の最大の利点は、SCMからの指示を直接受け、最適な配送計画を迅速に立案できることです。また、多くの配送センターやピッキングセンターは生産工場と同敷地内に配置されており、コンベアなどによる製品の移動も可能です。さらに業務実績をSCMにフィードバックすることや他部門との連携により、さらなる業務の効率化を行っています。



全国に配置された配送センターとピッキングセンター

■配送センター

北海道配送センター（北海道石狩市）
東北配送センター（山形県寒河江市）
関東ハブセンター（茨城県八千代町）
八王子配送センター（東京都八王子市）
東海配送センター（静岡県長泉町）
中部ハブセンター（岐阜県輪之内町）
関西ハブセンター（兵庫県小野市）
福山ハブセンター（広島県福山市）
九州配送センター（佐賀県吉野ヶ里町）

生産工場から配送センターそしてピッキングセンターまで、製品はケースに印字された4桁コードで一元管理し、取り違いミスをほぼゼロにしています。

生産工場から配送センターへと移動するケースを製品ごとにパレットに積むアームロボット。左ページの図内「生産した製品の移動」でも省人化を実施しています。

1 配送センター内におけるよりスムースなコミュニケーションのため、複数のスタッフをオープン回線で同時に繋ぐ“バディコム”を2022年度に導入しました。タイムリーな指示伝達のやりとりが可能です。

2 予め引いたラインの上を走る、広い倉庫内の横搬送に欠かせないAGV（無人搬送車）はたくさんのケースを運べるようにバージョンアップ。

3 AGF（無人フォークリフト）は現在全国で6台導入。AGFが24時間稼働することにより、1人分の作業をカバーできます。

4 トラックバースに到着するトラックのスケジュールに合わせ、ケースが流れるソーターシステム。積み込み作業までの待ち時間を減らし、ドライバーの拘束時間を短縮しています。

エフピコが製造した製品と他社から仕入れた資材（割箸、衛生手袋、紙タオル等）を合わせてお客様に納品するための仕分け作業では、“音声ピッキング”を導入しています。ワイヤレスのヘッドセットを使用し、何を集めるかの指示は耳から、指示を確認するための音声はマイクを通して行い、作業する両手は常にフリーの状態です。スタッフの集中力が高まり、ミスは100万回にわずか0.3件となっています。

■ピッキングセンター

北海道ピッキングセンター（北海道石狩市）
東北ピッキングセンター（宮城県大衡村）
関東ピッキングセンター（茨城県八千代町）
茨城ピッキングセンター（茨城県八千代町）
八王子ピッキングセンター（東京都八王子市）
新潟ピッキングセンター（新潟県長岡市）
中部ピッキングセンター（岐阜県輪之内町）
関西ピッキングセンター（兵庫県神戸市）
福山ピッキングセンター（広島県福山市）
九州ピッキングセンター（佐賀県吉野ヶ里町）

販売

SALE

販売の現場で働く方々がふと感じたことや必要と思われる改善点などをひとつずつ丁寧に拾っていくことがエフピコからの提案のスタート地点。販売部門スタッフはその最前線にいます。

販売部門のスタッフは１日に何度も食品売り場に足を運びます。お客様と直接コミュニケーションを取り、情報収集を行っています。

スーパーマーケット等食品販売店　**お客様**　コンビニエンスストア

❶訪問・情報収集

異なる時間帯、曜日、イベント日などで何度でも繰り返し訪問し、店舗スタッフからも情報収集を行う。

❷分析・提案資料作成

全国の営業所などから集められた日報をもとに、お客様のニーズを分析。ニーズを満たす製品や陳列方法、販売方法などを多岐にわたって検討し、資料を作成。

「100分析」　市場浸透　市場の深掘り　需要の発掘

❸提案・販売

エフピコの容器活用のメリットを説明した各種資料を持って提案。店舗に伺う訪問以外にも、ご来社いただくなどの各種提案プログラムもあります。

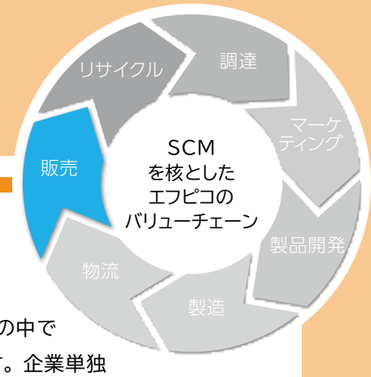
他部門からのサポート

マーケティング部門による情報分析、提案企画立案など。リサイクル部門からは環境関連の資料提供など。物流部門は配送状況をスマホにリアルタイムで通知。

受注予測

製品ごとの販売予測を立てSCM本部を始め生産部門、物流部門とも情報を共有

サプライチェーン・マネジメント システム（SCM）



エフピコが実践する提案スタイルのバリエーション

お客様に対してエフピコの営業スタッフは様々な形態の提案を行っています。その中で最もユニークなのはマーケティングのパートでもご説明した「エフピコフェア」です。企業単独の展示会は今では一般的ですが、エフピコが最初にこのフェアを開催したのは東京ビッグサイトが生まれる20年も前の1976年。現在は3日間で約15,000人の方にご来場いただいています。営業スタッフはきめ細やかに対応を行い、スーパーの売り場を再現した展示をご覧いただきながら、より具体的な提案を行っています。

エフピコフェアとは対照的に、各地の営業所に近隣のお客様をお招きして行うミニフェアを全国８カ所で開催しています。変化のスピードが速い食品販売市場に対応する小回りの利く小規模展示会で、“今、お客様にぜひ知っていただきたいこと”をお伝えしています。2022年度は秋に集中して開催し、特に旬な話題として冷凍市場におけるエフピコ製品の活用についてプレゼンテーションさせていただきました。

展示会のように実際に製品をご覧いただきながらの提案がベストですが、場所と時間の制約がある方のための施策としてホームページやスマホアプリによる情報提供と販売も展開しています。ECサイト「PACK MARKET」で新しい情報を迅速に発信している他、InstagramやLINEでも日々様々な情報更新と提案を行っています。

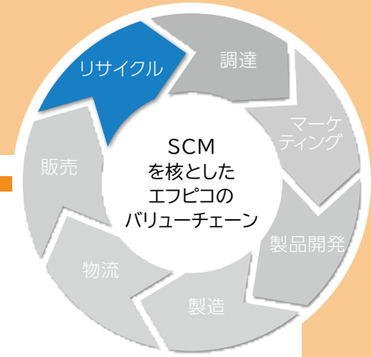
リサイクル

RECYCLING

エフピコは全国のスーパーマーケットなど約１万拠点で使用済み食品トレー・透明容器・PETボトルを回収しており、その後のリサイクル工程も効率的に全国各地で展開しています。

使用済み食品トレー･透明容器･ PETボトルは廃棄ではなくリサイクルされることにより新たな価値を生み出します。使用済み製品が新しい製品の原材料（エフピコではこれを“地上資源”と呼んでいます）となることで、CO_2削減など様々な価値創造に繋がっています。

選別センターへと持ち込まれた使用済み食品トレー･透明容器･ PETボトルはリサイクル工場で再生原料として生まれ変わり、同じ敷地内の生産工場でエコ製品となって自社物流センターから出荷されています。



1 北海道減容センター（北海道石狩市）

2 山形選別センター（山形県寒河江市）

3 関東リサイクル工場
4 関東PETリサイクル工場
5 茨城選別センター
（関東リサイクルセンター（茨城県八千代市））

6 東海選別センター（静岡県長泉町）

7 松本選別センター（長野県松本市）

8 中部リサイクル工場
9 中部PETリサイクル工場
10 岐阜選別センター
（中部リサイクルセンター（岐阜県輪之内町））

11 金沢選別センター（石川県金沢市）

12 西宮選別センター（兵庫県西宮市）

13 福山リサイクル工場
14 福山選別センター
（福山リサイクルセンター（広島県福山市））

15 西日本ペットボトルリサイクル㈱（福岡県北九州市）

16 佐賀選別センター（佐賀県神埼市）

<凡例>
- 選別・減容センター
- リサイクル工場
- PETリサイクル工場
- PETボトルのリサイクルのみ

発泡トレー

使用済み発泡トレーは白と色･柄で選別

選別された発泡トレーは洗浄、破砕、溶融を経てペレット（原材料）になった後、製造工程へ

エコトレー®

発泡スチロール製の食品トレー。保温性、断熱性に優れた汎用性のある製品。精肉や魚などによく使われています。

透明容器

使用済み透明容器は素材で選別

選別されたPETボトル･透明容器は洗浄のみならず揮発留分を除去し食品グレードのペレット（原材料）になった後、製造工場へ

エコ APET®

耐油性、透明性が特徴の製品。サラダ容器、冷やし麺容器などに使用されています。

PET ボトル

使用済みPETボトルはラベル剥離･素材選別を経て製造工程へ

エコ OPET®

耐油性、透明性があり、80℃耐熱性と耐寒性もある製品。電子レンジ対応容器の蓋として多用されています。

エフピコグループの重要課題 | Materiality

経営理念に基づいた事業を展開して目指すビジョンを実現していくため、事業の持続可能性にとって重要なリスク及び機会の観点から、エフピコグループが定めている重要課題（マテリアリティ）についてお伝えいたします。

重要課題の特定プロセス

（1）課題の抽出

SDGs、GRIスタンダード、ESG評価機関の評価項目などを参考に、エフピコグループの企業価値向上に向け必要な課題を抽出しています。

（2）課題の整理

環境戦略・TCFD推進管理委員会にて、当社グループの経営理念やあらゆる視点からの意見を踏まえ、当社グループにとっての重要度、ステークホルダーにとっての重要度の2軸から優先的に取り組む課題を特定しています。

（3）承認

特定したマテリアリティの項目について、取締役会の承認を経て決定しています。

エフピコグループでは重要課題を以下のように分類し、それぞれが目指すビジョンに従った取組みを行っています。

目指す姿	エフピコグループの重要課題（マテリアリティ）	取り組み	関連するSDGs
持続可能な社会の構築	◎CO_2排出削減	○太陽光発電設備の導入 ○再生原料を使用したエコ製品の拡大	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう
	◎プラスチックごみ問題の解決	○リサイクルボックスによる使用済み製品の回収 ○「エフピコ環境基金」を通じた活動	
安心・安全で豊かな食生活の創造	◎新たな価値を提供する製品開発	○価値創造提案 ○新素材の研究開発 ○製品のプラスチック使用量削減 ○食品ロスの削減	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任 つかう責任
「必要なときに確実にお届けする」インフラの確立	◎製商品の安定供給	○サプライチェーン・マネジメント（SCM） ○全国各地の生産・物流ネットワーク構築 ○災害対策（非常用自家発電設備と燃料備蓄、防波堤設置）	8 働きがいも経済成長も
経営基盤の強化	◎従業員のエンゲージメント向上 ◎インクルージョンの推進 ◎コーポレートガバナンス	○ディーセントワーク（健康・安全で働きがいのある仕事）の推進 ○障がい者雇用などダイバーシティ経営 ○人材マネジメント（人事制度、各種研修プログラムの充実） ○業務全般におけるDX推進	5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に
地域社会との共生	◎コミュニティへの参画	○リサイクル工場見学や出前授業の実施 ○「エフピコ環境基金」を通じた地域社会と一体で進める環境活動 ○子ども食堂への容器寄贈	17 パートナーシップで目標を達成しよう

CO_2排出削減の取組み

●『エフピコグループ中・長期環境目標』の設定と実行

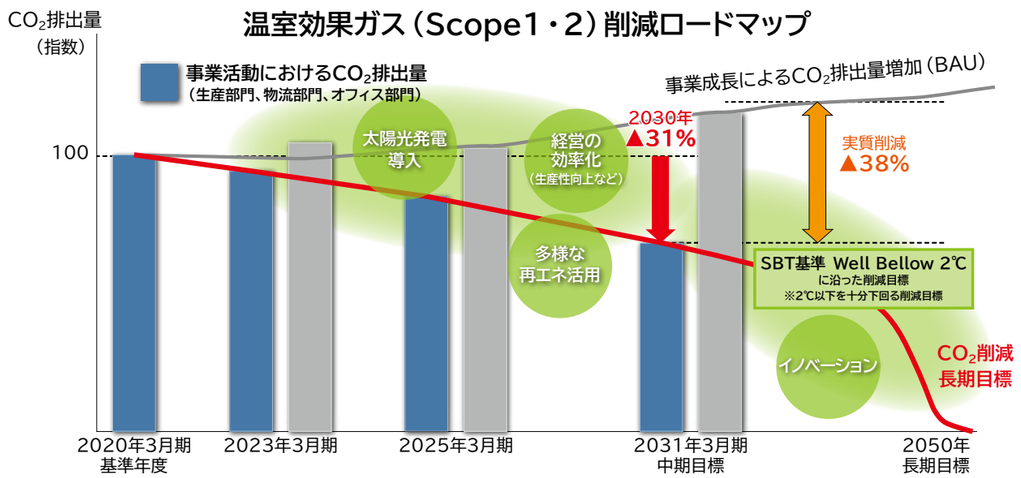
地球温暖化による気候変動というグローバルな課題に対し、当社グループが果たす責任とその役割として、脱炭素社会の実現に向けた中・長期目標を策定しています。目標値としては、【2031年3月期までにCO_2 排出量(Scope1・2※)31%削減】及び【2050年度までにCO_2排出量(Scope1・2)の実質ゼロ】を目指します。

《エフピコグループ　中・長期環境目標》

Ⅰ．事業活動全体におけるCO_2排出量（Scope1・2）を2031年3月期までに2020年3月期比31%削減します。

Ⅱ．エコ製品（エコトレー、エコAPET、エコOPET）によるCO_2排出削減量を2031年3月期までに27.2万tに増やします。（2020年3月期比170%増）

Ⅲ．事業活動全体におけるCO_2排出量（Scope1・2）の実質ゼロを2050年度までに目指します。



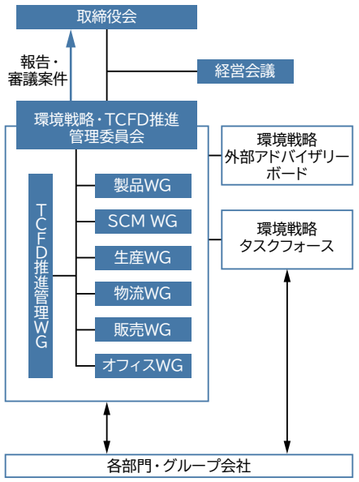
※Scope1は、事業者自らによる温室効果ガスの直接排出。Scope2は、他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出。

関東、中部、関西の3つの生産・物流拠点において順次太陽光発電設備の設置・運転を行っています。関東・中部は既に稼働しており、関西での運転が開始すると、エコトレーのCO_2削減効果が30%から37%に上昇する見込みです。

2022年に設置した関東エリアの太陽光発電装置

TCFD提言に基づく情報開示

エフピコグループは気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明しています。今後、サプラチェーン全体でのCO_2排出削減が一層求められることを重要な経営課題と認識し、TCFD提言の枠組みを通じて、①気候変動に関するリスクやシナリオを想定し、大きく環境が変化する中でも何も起こらない強靭なガバナンス体制を運用すること、②顧客ニーズを迅速にとらえ、事業の持続的成長のための機会として活かすことの両面において、グループ一丸となって取り組んでいます。詳細はHP（https://www.fpco.jp/esg/environmenteffort/tcfd.html)をご覧ください。



●ガバナンス

気候関連のリスク及び機会の評価・管理、気候関連の方針・戦略・取り組み（エフピコ・エコアクション2.0）について取締役会による監視体制を構築しております。

1）部門横断組織である「環境戦略・TCFD推進管理委員会」が、グループ全体の環境戦略やTCFD推進について議論し、方針・戦略を立案します。「環境戦略・TCFD推進管理委員会」の運営にあたっては、社長直轄の環境に関する専門組織であるサステナビリティ推進室が事務局を担います。
2）グループ全体の環境戦略のもと、製品・SCM・生産・物流・販売・オフィスの各部門に設置したWG（ワーキンググループ）が自主目標を立て、気候関連課題をはじめとする環境課題の解決に向けた取組みを実施いたします。
3）各WGは、四半期に一度、取組みの進捗状況を「環境戦略・TCFD推進管理委員会」に報告します。
4）「環境戦略・TCFD推進管理委員会」は、方針・戦略及び取組みの進捗状況について、毎年取締役会へ報告します。
5）取締役会は「環境戦略・TCFD推進管理委員会」からの報告を受け、様々な視点・知見をふまえモニタリングを行います。

●戦略

エフピコグループでは、気候変動のリスク及び機会を特定し、また、2030年をターゲットに、気候変動対策を推進する2℃シナリオ（1.5℃シナリオ）及び気候変動対策が推進されない4℃シナリオにおける気候シナリオ分析を実施し、整理したリスク・機会による財務影響額を試算いたしました。分析の結果、再生原料の調達量拡大、エコ製品の販売拡大、再生エネルギーの活用、新たなリサイクル手法の確立等を通じて、影響を抑えることができることを確認いたしました。リスク及び機会、シナリオ分析結果はHP（https://www.fpco.jp/esg/environmenteffort/tcfd.html）をご覧ください。

●リスク管理

気候関連リスクを含む全社的なリスク管理については、取締役、執行役員やグループ会社の代表者が参加する経営会議（毎月）や情報交換会（毎週）を開催し、リスク発生の未然防止ならびにリスク管理に取り組む体制を構築しております。気候関連については、製品・SCM・生産・物流・販売・オフィスの各部門に設置したWG（ワーキンググループ）が主体的に様々な目標を立てCO_2排出量の削減に向けた取り組みを実施しており、環境戦略・TCFD推進管理委員会がこれらの進捗状況及び結果の報告を受け、評価を行っております。

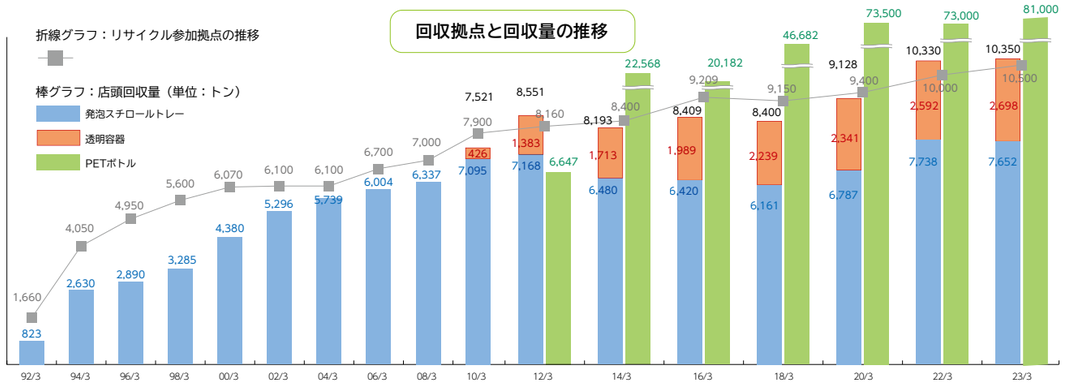
●指標と目標

エフピコグループ中・長期環境目標（P.41）を策定し、様々な取り組みを推進します。

エフピコ方式リサイクル

使用済み食品トレーをスーパーマーケットの店頭で回収し、リサイクル工場へと運んで新たな製品として生まれ変わらせるという活動は、エフピコが1990年に自主的に始めたリサイクル事業です。このリサイクルの輪は使用済み食品容器を洗ってスーパーの店頭に持ってきてくださる「消費者の皆様」、店頭での回収に協力いただいている「スーパーマーケット様等」、「包材問屋様」、それにエフピコを加えた4者が一体となり、成り立っています。

この「エフピコ方式リサイクル」が軌道に乗り、順調に成長を遂げてきた背景には社会全体の環境に対する意識の高まりがあります。使用済み食品容器の回収ボックスを設置してくださるスーパーマーケット様が増え、それとともに回収できる量も増えてきました。また、2008年からは透明容器そして2011年からは使用済みのPETボトルを透明容器にリサイクルする事業もスタートし、量的にも質的にもリサイクルの輪を拡大しています。今後もさらにエフピコ方式リサイクルを進化・深化させていくための様々な施策を講じていく予定です。



●リサイクルの輪を広げるための様々な取組み

使用済み製品の回収量を増やし、エフピコ方式リサイクルをさらに発展させていくため、以下をはじめとする様々な取組みを行っています。

❶スーパーマーケット様との協働

消費者の方々と最大の接点を持つスーパーマーケット様との協働により、使用済み容器回収のPRを行っています。「お店で使用・販売した食品トレー・PETボトルは、そのお店で資源として回収し、食品トレー・容器に再生してそのお店で積極的に使用する」というお店を発着点とした“ストア to ストア”のリサイクルにご協力いただき、店舗内の一角にブースを設置してのPR活動なども実施しています。

❷教育機関への出前授業

主に小学生を対象にサステナビリティ推進室のスタッフが学校に出向き、リサイクルや環境に関する授業を行っています。特にコロナ禍でリサイクル工場にお招きできない期間は、出前授業を精力的に実施しました。訪問した学校の生徒さんたちから、「リサイクルお願いします」と直接使用済み容器を渡されることもあり、生徒さんたちと交流しながらPRをしています。（2023年3月期実績：92校・5,546名）

❸学習漫画の制作と全国各所への配布

「学研まんがでよくわかるシリーズ182」として『食品トレーのひみつ』と題した学習漫画を制作し、2022年5月に発行しました。この漫画は全国の小学校や公立図書館約25,000カ所を含めお取引様などにも寄贈し環境に対するエフピコの取組みと想いを子供たちに伝えています。

●エフピコ方式リサイクルの成果

使用済み容器のリサイクルはCO_2削減という形で明確に表れています。バージン素材を製造するための石油（地下資源）を使わず、使用済み容器という“地上資源”を利用することはCO_2削減において大きな効果があります。以下のような成果以外にも、ごみ処理のための経費が削減されるなどの社会的効果も生み出しています。

2022年度に削減したCO_2の量：約17万トン

	発泡トレー		透明容器		PETボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	本数
2023年3月期（2022年度）	7,652t	19億1,300万枚	2,698t	2億6,980万枚	81,000t	32億4,000万本
累　計（1990年～2023年3月）	174,819t	437億475万枚	26,616t	26億6,160万枚	539,789t	209億5,732万本

※発泡トレー：4g/枚、透明容器：10g/枚、PETボトル：25g/本で計算（2016年度より変更。それ以前は30g/本で計算）

新たな価値を提供する製品の開発

近年の食品市場における需要、販売方法のトレンド、さらに高まる環境への配慮など、食品容器に求められるニーズに応える様々な容器の開発を行い、容器を通してお客様と社会に価値を提供しています。

●冷凍食品市場の需要に応える製品

近年の食品冷凍技術の進歩により、冷凍食品市場は大きくなっています。スーパーマーケットなどでも取り扱う冷凍商品の数と種類は増えていますが、そうした商品に対応する耐寒・耐熱（冷凍庫からそのまま電子レンジ）に適した製品の開発を続けています。

プラスチック使用量を減らしながらも幅広い温度帯で使用でき、さらに潰れにくく割れにくいi-タルクという新素材を使った容器。

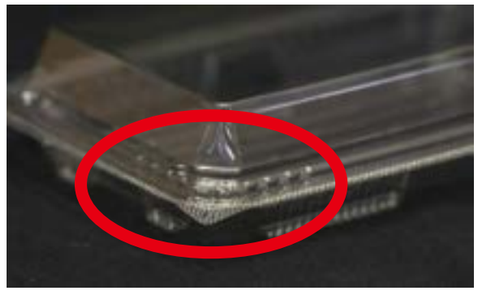
ボイル用・レトルト用として使用できる三方袋を使った製品。真空包装用としての使用ができます。

●環境への配慮をさらに追及した製品

写真の左側の容器は発泡素材を使用した軽量製品で右側は従来の非発泡製品。見た目はまるっきり同じでも左はプラスチック使用量を60%以上削減しています。成形の技術開発により、強度を変えることなく、それまで非発泡だった素材を発泡にすることで軽量化を可能にしています。

●販売オペレーションの利便性を追求した製品

“閉めやすく、開けやすい” を追求した製品です。蓋と本体を留めるテープが数カ所貼ってある弁当や寿司が一般的ですが、テープを貼る手間も剥がす際の面倒もない、しっかりとしたかん合を実現しています。角の三角のべろだけでなく、その左右に凹凸を付けた広い面積でのかん合により、確実に閉めたことを“パチッ”という音で知らせます。



●消費者の方々の選択肢を増やす紙製品

“紙トレーも欲しい”というお客様や消費者の方々の要望にお応えする紙製品もエフピコでは製造しています。FSC※認証紙を使った耐水・耐油仕様のトレーで、様々な食品に使っていただけるよう、強度やプラスチック製品と同じセーフティエッジなどの安全性にも配慮しています。

※環境や社会に対して持続可能な森林管理のもと製造された製品を認証する国際的な制度。

製商品の安定供給

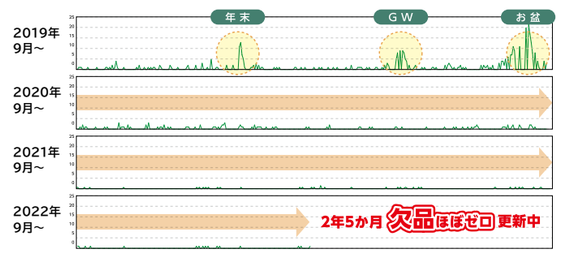
バリューチェーンのパートでご説明しました通り、エフピコでは使用済み容器をリサイクルした素材も活用して製品を生産し、自社物流によって製商品をお客様へと配送しています。この供給ラインを安定して稼働させるため、リサイクル施設、生産工場、物流拠点の３つを全国にバランス良く配置した製商品の供給ネットワークを構築しています。

●安定供給を実現する全国ネットワーク

2023年1月の関西ハブセンターの稼働により、エフピコでは全国の配送センターから100キロ圏内で日本の人口85%をカバーする物流ネットワークが完成しました。安定供給のためには商圏の近くに配送センターを配置し、製商品を常に供給できる体制を構築しておくことが重要です。エフピコは全国に9カ所の配送センターを配備し、そのうち4カ所は近隣の配送センターとネットワークを形成するハブセンターとなっています。またハブセンターにはリサイクル施設も併設され、リサイクル、製造、配送の循環が完結する大型拠点として構築されています。

●SCMによる供給計画の精度向上

AIと生産・物流現場の経験値が補完し合い、製品の生産予測の精度を上げているSCMにより、現在ではほぼ欠品ゼロになっています。コロナ禍で家庭内での食事とデリバリーの増大により食品容器の需要が大きく増えた2020年以降も、欠品ほぼゼロは続いています。



●非常時の電源供給

自然災害などによる停電のような非常時に72時間電気を供給する非常用発電装置を全国の重要物流拠点（22拠点）に設置しています。その他、本社など重要な拠点にも電源のバックアップ体制を整え、製商品の配送を途切れさせないリスク管理を行っています。

従業員のエンゲージメント向上

●エフピコの人権尊重の考え方

エフピコグループは、「世界人権宣言」や「労働における基本的原則及び権利に関するILO（国際労働機関）宣言」等の国際規範を支持しており、以下の方針に基づいて人権と個人を尊重した安全で働きやすい職場環境を実現します。

エフピコグループ人権方針

1. 全ての人がお互いの個性と人権を尊重し、年齢・国籍・人種・信条・宗教・性別・性的指向・性自認・障がい・社会的身分や社内的地位などを理由に差別されることなく公正な扱いを受け、平等な機会を得る権利を有するという基本原則の下、「エフピコグループ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」に基づき全ての事業活動において、人権と個人を尊重し、良き企業市民として高い倫理観と社会的良識を持って行動し、全てのステークホルダーと健全かつ正常な関係を保ち、社会から信頼される企業グループとして持続的に企業価値を高めて参ります。
2. ハラスメントを禁止し、そのような言動を一切容認しません。ハラスメントの防止に係る体制の整備、発生したハラスメントへの的確な対応を行うことによりハラスメントの防止を図り、業務の円滑な運営と働きやすい職場環境を確保します。
3. 法令及びその他の労働基準を遵守し、事業活動を行ういかなる場所でも、児童労働・強制労働を禁止します。
4. 心身ともに健康で、安全かつ安心していきいきと働くことができる職場環境を整備するとともに、仕事と生活の調和のとれた働き方を推進します。
5. 労働法令を遵守し、社員へ最低賃金以上の賃金を支払います。
6. 労働者の団体権、団体交渉権等を企業として尊重すべき基本的人権の要素と考え、労働者の権利を妨げません。
7. 事業活動を行う国・地域において適用される法令を遵守します。万一、当該国・地域の法規制と国際的な人権規範が相反する場合には、当該国・地域の法令の範囲内で、国際的な人権規範を尊重する方法を追求します。

●人権方針に基づく取組み

株式会社エフピコの取締役会が「エフピコグループ人権方針」の遵守・実施状況を監督し、以下のような様々な取組みを実施しています。

児童労働・強制労働の禁止…採用活動にあたっては、当該国・地域の法令を遵守します。採用時には年齢確認を徹底することで、児童労働の発生を防止します。また、強制労働防止のため、パスポートなど社員の重要書類の会社保管や移動の自由の制限は行いません。
同一労働同一賃金…エフピコグループは、法律で定められた最低賃金以上の支払いを遵守し、同一資格・同一職務レベルにおいて統一された報酬体系を適用しています。
ハラスメント防止研修の実施…管理職、一般社員各々を対象として、実例・判例をふまえた講義やDVD視聴によるハラスメント防止研修を実施しています。特に管理職に対しては、エフピコグループの職場相談窓口に届いたいじめや嫌がらせの報告の取り扱いに関して教示し、ハラスメント防止を強力に啓発する内容を研修内容に組み込んでいます。実績としては、管理職1,101名、一般社員799名、計1,900名受講済みとなっています。（2023年３月時点）

●いきいきと働くことのできる職場環境の整備

エフピコグループでは、社員一人ひとりが個々の能力や特性を最大限に発揮してその役割を果たし、やりがいや充実感を持ちながらいきいきと働ける環境を作ることが、企業価値の向上につながる経営課題の一つであると考えています。ハード面では、健康・安全を確保した職場を整備するとともに、ソフト面では、働きやすい制度設計等を通じて職場環境の整備に努めています。

〈主な取組み〉

制度・施策	内　　容
時差出勤	「労働時間の最適化」の取り組みとして、仕事の性質に合わせて働くことができるよう8パターンの時差出勤を導入。
スマイル休暇	労働時間の有効活用と心身のリフレッシュ等を図ることを目的に導入。
時間単位の年次有給休暇	通院や子どもの学校行事への参加、家族の介護など様々な事情に応じて柔軟に休暇取得できるよう時間単位の年次有給休暇制度を導入。
育児時短勤務	最大「小学校3年生の年度末」まで延長できるよう育児短時間勤務拡充。
ノー残業デー	社員が仕事と生活の調和を図りつつ効率的な業務遂行を実現することを目的に、原則週2日のノー残業デーを導入。
テレワーク	出社との最適な組み合わせにより、生産性の維持・向上の実現を図ることを目的にテレワークを導入。

働き盛りと子育て盛りの最中にいる社員とその周囲の社員が共に育児しやすい職場環境づくりを促進するために、ハンドブック『仕事と育児の両立のために』を制作しました。結婚・出産を経ても働きやすい職場環境の形成を推進しています。女性社員の育児休業取得率は100%が続いております。

また、男性社員の育児休業取得も強く推奨しています（右写真は育児休業取得の男性社員）。

●業務時間外での取組み

社員が自然災害などの復旧活動やエフピコ環境基金助成対象活動に参加する場合、ボランティア休暇制度を利用することができます。エフピコが主催するフロアホッケー大会にも、社員がボランティアスタッフとして運営に関わっています。また、野球、ヨット、テニス、フロアホッケーなど社員が趣味で行っているレクリエーションを活動費の提供という形でサポートしています。さらに歓迎会なども補助の対象となっています。

SPORTS YELL COMPANY 2023

インクルージョンの推進

●障がいのある人材の活躍

障がいのある人材の雇用は37年の歴史がありますが、その発展は現在も継続中です。2023年3月時点で、業務提携先なども含めると全国に20の事業所があり、エフピコグループの基幹事業で活躍しています。

1986年
知的障がいの子を持つ親の会「あひるの会」との繋がりで、(株)ダックスを創立し、発泡トレー製造での雇用を開始

エフピコ愛パック(株)
営利法人として初の障害者総合支援法による就労継続支援A型の認定事業所

1995年
高知県内の事業所において透明容器の製造を開始。後に佐賀県内の事業所でも本業務をスタート

2006年
弁当箱などの折箱タイプ容器製造で営利法人初の就労継続支援A型事業を開始(翌年、エフピコ愛パック(株)に発展)

エフピコダックス(株)
エフピコの特例子会社として厚生労働大臣から認定を受け、全国規模で事業を展開

2008年
業務内容をリサイクル事業の回収トレー選別へと拡大。後に透明容器の選別業務も手掛けるように

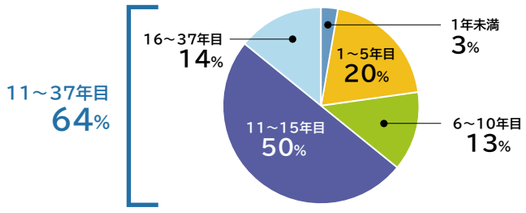
2017年
4社の特例子会社を全国規模の特例子会社、エフピコダックス㈱として1社に再編

2019年
エフピコグループ会社での一般就労移行も進展

2023年3月時点

障がいのある社員数		365名
内訳	身体障がい	34名(うち重度14名)
	知的障がい	321名(うち重度(注1) 244名)
	精神障がい	10名
雇用率換算数(注2)		620.5名
障がい者雇用率		12.5%

(注1)職業判定上の重度を含む
(注2)重度障がいのある人を2、短時間労働者を0.5と換算した人



勤続年数内訳(2023年3月時点)

2022年6月、障がい者の雇用の促進及び雇用の安定に関する取組み等に関して実施状況が優良であるとして、エフピコダックス(株)は厚生労働大臣より『もにす認定』を受けました。高知県の事業所では初の認定です。

企業と障がい者が、明るい未来や社会の実現に向けて
ともにすすむ

●障がいのある人材の雇用サポート

エフピコが培ってきた障がいのある人材活用のノウハウを、お取引様の障がい者雇用のサポートとして活かす活動を行っています。この活動を通じて2023年1月時点で、52事業所760名の障がい者雇用が新たに生まれました。仕事の内容は農業、食品製造、リサイクルなど幅広い分野にわたっており、それぞれの職場で貴重な戦力となっています。

STEP 1 打合わせ → STEP 2 ご提案(作業内容や採用方法など) → STEP 3 ご担当者様研修(支援ノウハウなど) → STEP 4 雇用開始 → STEP 5 継続サポート → STEP 6 自立自走へ

野菜栽培

製麺

コンテナ洗浄

パン製造

調理・接客(レストラン)

●フロアホッケーを通じたインクルージョンの推進

エフピコでは2010年からフロアホッケー活動を行っています。 2022年11月時点でエフピコグループの社員540名(障がいのある社員181名、障がいのない社員359名)が全国9つのエリアで活動しています。さらに、全日本フロアホッケー競技大会、ユニバーサルフロアホッケー西日本大会のメインスポンサーになるとともに、多くの社員がボランティアとして運営を支えています。フロアホッケーを通じ、障がいの有無を超えたインクルージョンの輪をこれからも広げていきます。

対談『エフピコとフロアホッケーの幸せな関係』

特定非営利活動法人日本フロアホッケー連盟理事長の増田明美（2021年2月就任）さんとエフピコグループ代表の佐藤が、両者を繋いだフロアホッケー、そしてインクルージョン社会について語ります。

佐藤 守正
株式会社エフピコ代表取締役会長
（兼）エフピコグループ代表

増田 明美
特定非営利活動法人日本フロアホッケー連盟理事長
スポーツジャーナリスト

佐藤　増田さんに理事長にご就任いただき「すばらしい方にこの要職を引き受けていただいた」と思いました。フロアホッケーというのは残念ながらまだマイナーな競技ですので、細川前理事長のご功績からさらに発展していくためには、障がいのある人のスポーツに理解があり、かつ影響力のある方にトップになっていただきたいとかねてから考えていたからです。

増田　この重責をお受けするかどうか最初は迷いました。でもフロアホッケーについてご説明いただいた中で、過去を振り返ってみると、今で言うインクルージョンの精神に沿った活動に関わることが多いことに気付きました。フロアホッケーについて一番惹かれたのは障がいの有無を超えて一緒にプレーできるユニバーサルな競技だということ、そこにやりがいを感じました。

佐藤　そう、他にはこんなスポーツはないんですよね。私の場合は初代理事長の細川さんを通してフロアホッケーとの出会いがありました。その頃エフピコは障がいのある人材を多く雇用し始めた時期でした。同じ企業グループで働く社員同士としてコミュニケーションを深めて欲しいと思い、ユニバーサルスポーツであるフロアホッケーが役に立つのではないかと考え、始めてみたんです。

■増田明美氏略歴
千葉県生まれ。私立成田高校在学中、長距離種目で次々に日本新記録を樹立。1984年ロサンゼルスオリンピック出場。1992年に引退するまでに日本最高記録12回、世界最高記録2回更新。現在はスポーツジャーナリストとしてマラソン中継の解説や執筆活動を行う。日本陸上競技連盟評議員、日本障がい者スポーツ協会評議員でもある。

“この競技のPRをどんどんやっていこうと思っています。”

増田　そうだったんですね。先日開催された福山での西日本大会(※1)が、私が実際に生で見る初めての経験でした。年齢、性別、障がいの有無など関係のないユニバーサルなスポーツで感銘を受けました。本当に平等なんですよね。それに観ていて楽しい。

佐藤　そうなんです、素敵なスポーツなのでもっとPRをして世の中に広めていきたい。

増田　はい、頑張ってどんどんPRしていくつもりです。スポーツ界の仲間にも協力をしてもらおうと考えています。先日もスペシャルオリンピックス(※2)日本の理事長の有森裕子さんと情報交換をしました。また、スポーツ界の有名な人たちへの働きかけとともに、各地域の総合型地域スポーツクラブ(※3)にアプローチするという草の根的な方法もいいと思います。マスメディアも活用していきたいですね。先日もある業界新聞にフロアホッケーの記事を書いたんですよ。

佐藤　早速エネルギッシュに活動されていらっしゃいますね。

増田　それと、支援してくださる企業の方々がもっと増えるといいですね。今はエフピコさん一社のサポートに大きく頼っていますけど、この競技の素晴らしさを知っていただければ「インクルージョンの輪に入れてください」という企業が増えると思うんです。

“エネルギッシュな増田さんとご一緒に進んでいきたいと思います。”

※1　第11回ユニバーサルフロアホッケー西日本大会～エフピコ杯～のこと。2022年9月17日（土）福山市総合体育館「エフピコアリーナふくやま」で開催。同大会の開催は3年ぶり。

※2　知的発達障がいのある人の自立や社会参加を目的として、日常的なスポーツプログラムや成果の発表の場としての競技会を提供する国際的なスポーツ組織。

※3　スポーツ庁が推進する地域スポーツ活動。多世代が多種目を様々なレベルで多志向に参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

“エフピコさんのインクルージョン活動には感心、そして感謝です。”

増田　福山で開催された西日本大会の前に障がいのある社員の方々が働くエフピコさんのリサイクル工場と製造工場を見学させていただきました。皆さんの仕事のスピードや正確さに驚きました。

佐藤　最初ご覧になる方は大抵驚かれます。でも私たちにとっては普通のことなんです。障がいのある人材は、能力があって仕事をしていて、その対価として給料を得ている。戦力として雇用しているんです。

増田　職場で活躍する障がいのある社員がレクリエーションとして、他の社員と一緒にフロアホッケーを楽しんでいる。それが佐藤さんのおっしゃる普通のことなんですね。

佐藤　フロアホッケーでは皆ヘルメットをかぶっていて、誰が障がいがあるとか、年齢や性別なんかも分からないんです。分け隔てなく皆が当たり前に普通にプレーをしている。象徴的な姿で僕は好きです。

増田　西日本大会も東京で開催された全国大会(※4)もたくさんの選手の熱気が溢れていました。大会の様子を見ていて気付きましたが、エフピコチームの同じ企業グループで働く者同士の一体感がプレーにも表れていてステキでした。それと、会場設営から大会運営に至るまでを担っているボランティア社員の方たちも楽しそうに動いていらっしゃいましたね。

佐藤　若手の社員が中心になって活動しています。なにをどうやるかも彼らの自主性に任せています。ボランティアの社員も障がいのある社員と自然に接しています。何年もやってきた結果、成果ですね。これもフロアホッケーというスポーツを通して実現できたことです。スポーツの力だと思います。

増田　選手だった時に知的障がいのある人たちにジョギングを教えていたことがありました。そこからご縁が繋がり、練馬区と八丈島で「夢伝」というマラソン大会に関わるようになったんです。駅伝は競争、夢伝は自分のペースで自分のゴールに向かう夢を伝え合う大会です。ここでは知的障がいのある人、車いすの人、高齢者など皆が自分のペースで歩いたり走ったり。まだインクルージョンなんて言葉がなかった時代ですが、まさにその精神を体現した活動でした。誰もが同じ風にあたって一緒に走って、本当に気持ちが良かったです。私が目指すところのひとつだなと思いますし、フロアホッケー連盟の理事長になったのもそんな思いがいろいろなご縁に繋がって導かれたんだと感じます。

※4　第17回全日本フロアホッケー競技大会のこと。同大会の開催も3年。2022年10月15日（土）東京都葛飾区において開催。

佐藤　素敵なお話ですね。西日本大会を開催した会場はネーミングライツを得て「エフピコアリーナふくやま」とさせていただきましたが、活動をする場所の確保も重要なポイントです。インクルージョンなイベントをやろうと思っても場所がないと出来ない。活動の環境づくりも大事です。夢伝もそういう環境をつくってくれた方々がいらっしゃったから、たくさんの人の夢が実現できたと言えるでしょう。この活動は今でも続いているんですか？

増田　今も続いています。参加者の4人の障がいのある人たちが後にホノルルマラソンを4時間台で完走したんですよ。すごいでしょ。

佐藤　それはすごい！エフピコで働く障がいのある社員にもいろんな才能を持っている人がいるんですよ。エフピコグループの今年のカレンダーは障がいのある社員の芸術作品を掲載してつくりました。

増田　能力を伸ばしたり夢を叶えたりするのに障がいの有無は関係ありませんからね。私もこれからもっともっと誰もが同じ風にあたって生きることのできる環境づくりのお手伝いをしたいと思います。

佐藤　同感です。これからもよろしくお願いします。

“皆が同じ風にあたって一緒に走れる環境を共につくっていきましょう！”

コーポレートガバナンス

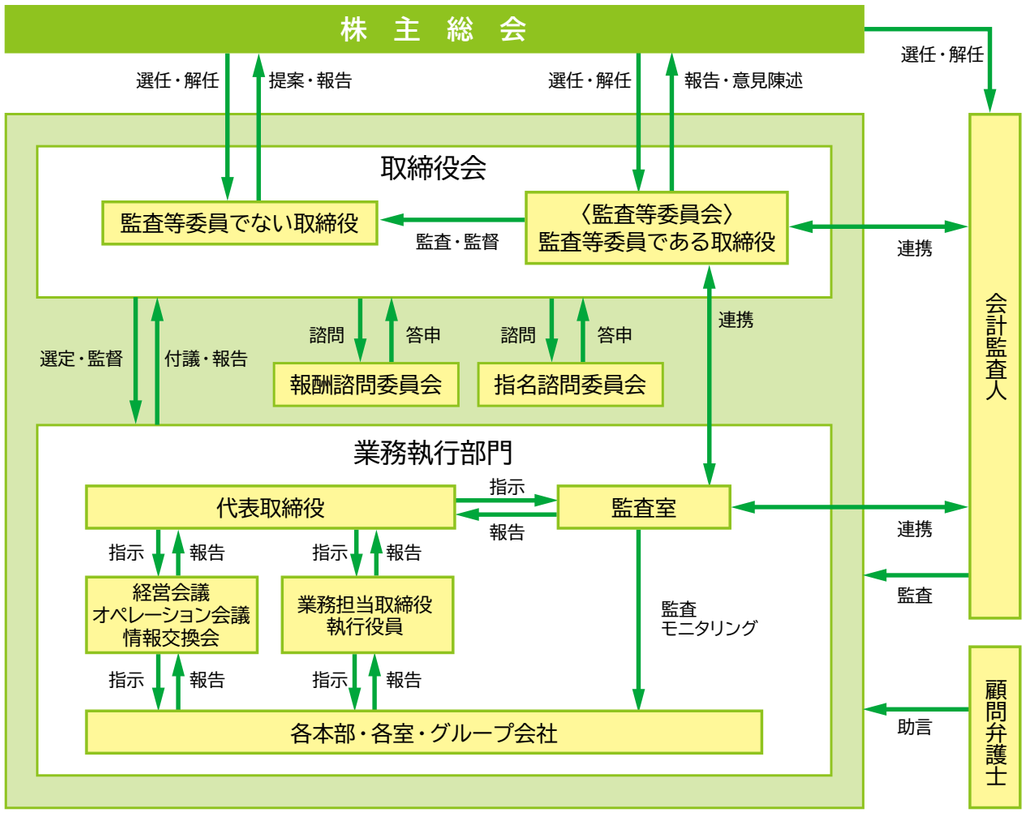
エフピコのコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方は、意思決定の透明性・公正性を確保し、保有する経営資源（人・物・金・情報）を有効に活用することです。さらにこれらを迅速かつ果断な意思決定により実行し、持続的な成長と長期的な企業価値を向上させることを目指しています。そのための基本方針として右の5つを掲げています。

① 株主の権利・平等性の確保
② 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
③ 適切な情報開示と透明性の確保
④ 取締役会等の責務
⑤ 株主との対話

●ガバナンス体制

持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、経営の意思決定の迅速化と取締役の職務執行の監査・監督機能を強化することで、コーポレート・ガバナンスの更なる充実を図ることを目的として、監査等委員会設置会社を選択しています。独立社外取締役のみで構成される監査等委員会が経営監視の役割を担い、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

内部統制システムの概要を含むコーポレートガバナンス体制についての模式図



●コンプライアンス

企業倫理の確立と法令遵守を推進するため、社長直轄の法務・コンプライアンス統括室を設置。「エフピコグループ行動憲章」、「エフピココンプライアンス行動規範」、「行動羅針盤」を施行し、健全な企業風土の醸成とともに社内規定の遵守の指導徹底に取組んでいます。法務・コンプライアンス統括室がグループ横断的にコンプライアンスに係る教育・研修を実施し、当社グループ社員がコンプライアンスを最優先とした行動を遵守するよう行動規範の浸透を図っています。
またグループ内のコンプライアンスを徹底するため、2年に１度、業務執行部門とは独立した社長直轄の監査室による内部監査を実施し、業務執行部門のリスク管理状況、コンプライアンス状況も含めモニタリングを行い、必要であれば改善要請を行うなどの体制を構築しています。取締役会においては、内部通報の件数及び内容が報告され、「エフピコグループ行動憲章」及び「エフピココンプライアンス行動規範」の有効性の検証が半年ごとに行われています。

●リスクマネジメント

取締役会にて「リスク管理規程」を定め、リスクを区分してグループ全体のリスクを適切に管理しています。生産・販売・物流に関する業務リスクについては、取締役、執行役員、ジェネラルマネージャーが参加するオペレーション会議を開催し、グループ会社を含むリスク管理については、取締役、執行役員やグループ会社の代表者が参加する情報交換会を開催してリスク管理に取組む体制を構築しています。リスク管理の具体例は以下の通り。

リスクサーベイの実施…自然災害による被害を最小限に留めること、また火災や労働災害の発生を未然に防ぐことを目的に、工場、配送センターなど事業所ごとのリスクサーベイを定期的に行っています。サーベイでは外部の専門コンサルタントが直接事業所を訪問し、様々な事故の危険度について調査。リスクの洗い出し、リスクの分析・評価を行っています。

2018年9月6日の地震で北海道全域の停電が約2日続いた際、道内の生産工場と物流施設は発電設備により通常通りの稼働を行いました。

自然災害への対応…自然災害に対するリスク管理としては、非常用備品の整備、火災時の消火訓練、災害時有線電話の設置、72時間の電力を確保した非常用発電設備の整備などを行っています。

製品安全のリスクへの対応…食品安全マネジメントシステムに関する国際規格である「FSSC22000」の認証取得を継続して進めており、2023年3月末時点でリサイクル・物流施設を含めた22工場において取得しています。

情報セキュリティに関するリスク対応…オフィスでの入退場管理、車両の出入りの多い複合施設ではナンバープレートによる登録制の入退場管理を行っています。データ管理としては、定期的なバックアップ、非常時対応用の外部データセンターの活用、回線の二重化、社外メール誤送信回避システム、専門業者によるPC廃棄などを実践しています。

●株主とのかかわり

持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資するため、エフピコは株主の皆さまとの建設的な対話を行い、積極的に株主の皆さまの意見や要望を経営に反映させていくことが重要と考えています。株主総会や年２回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや施設見学会などを実施し、中長期的な経営戦略や事業内容をよりわかりやすく説明することにより、株主の皆さまとの信頼関係構築と適正な株価の形成を図っています。また、常に適時・適正・迅速・公平な企業情報の開示に努めており、有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどは「株主・投資家情報」で公開しています。

コミュニティへの参画

“コミュニティへの参画”も重要課題の一つとして掲げています。下記のような様々な取組みや活動への参加により、社会課題の解決及びSDGｓへの取組みを推進し、地域社会との共生を目指しています。

●ネーミングライツの獲得

エフピコの地元福山市の総合体育館を「エフピコアリーナふくやま」とさせていただき、市民の方々に親しまれています。

●各種イベントへの参加

本社や事業所がある地域のお祭りや環境をテーマとした展示会など、毎年年間で20以上のイベントに参加しています。特に福山市が主催する「ばら祭り」にはスポンサードも行い、積極的に参画しています。

●出前授業の実施

主に小学校に出向きリサイクルや環境をテーマとした授業を行っています。使用済みトレーを直接手渡されることもあるなど、子どもたちとのダイレクトなコミュニケーションを深めています。

●教育マンガの制作・配布

環境に対するエフピコの取組みと思いを正しく理解していただきたいという考えから、『食品トレーのひみつ』と題した学習漫画を制作し、全国の小学校や公立図書館などに配布しています。

●工場見学の受け入れ

下記のリサイクル工場と選別センターにおいて工場見学の受け入れを行っています。これまで累計で50万人近くの近隣の小学校及び全国からの各種消費者団体、マスメディア各社、自治体などの方々にお越しいただいています。

工場見学の申し込み受付　見学受入日時:月～金（祝日を除く）9:00～16:30（一部施設を除く）ホームページからもお申込みいただけます。

＜リサイクル工場＞ 選別された容器が再生原料になるまでをご覧いただけます。

工場名	所在地	問い合わせ先	1団体あたり最大受入人数
関東リサイクル工場（関東PETリサイクル工場・茨城選別センター併設）	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	関東リサイクル工場 0296-48-0400	100名
中部リサイクル工場（中部PETリサイクル工場・岐阜選別センター併設）	〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村東511-5	中部リサイクル工場 0584-68-2041	60名
福山リサイクル工場（福山選別センター併設）	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	福山リサイクル工場 084-957-2301	130名

＜選別センター＞ スーパーマーケットなどから回収された容器を選別する様子がご覧いただけます。

工場名	所在地	問い合わせ先		1団体あたり最大受入人数
山形選別センター	〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地162番地	山形選別センター	0237-85-3645	20名
東海選別センター	〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1	東海選別センター	055-980-4571	12名
松本選別センター	〒390-0852 長野県松本市大字島立2267番地	サステナビリティ推進室	03-5325-7809	15名
金沢選別センター	〒920-0376 石川県金沢市福増町北204番地22	サステナビリティ推進室	03-5325-7809	15名
西宮選別センター	〒651-1431 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター 1丁目98-2	西宮選別センター	078-907-1288	45名
佐賀選別センター	〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町尾崎3032-1	佐賀選別センター	0952-51-1028	20名

「エフピコ環境基金」

海洋プラスチックごみ問題及び気候変動をはじめとする近年の地球規模の環境問題に対してさまざまな角度から活動をされている団体を助成すべく、2020年3月にエフピコ環境基金を創設しています。環境問題をテーマとする活動への当基金による助成を通じて、持続可能な社会の構築を地域の皆様とともに進めていきたいと考えています。
助成団体の選定は弊社独立社外取締役である末吉 竹二郎および京都大学大学院地球環境学堂の浅利美鈴准教授に務めていただいており、2023年度は以下の団体の活動への助成が決定しています。

団体名	所在地	活動プロジェクト名・活動内容
環境保全活動		
特定非営利活動法人 チャウス	群馬県	わたらせ川の環境保全・保護活動
特定非営利活動法人 宮島ネットワーク	広島県	宮島と周辺の海洋環境の維持と生態系の保全
認定特定非営利活動法人 神奈川海難救助隊	神奈川県	海ごみ削減「急務マイクロプラスチックになる前に回収」活動
特定非営利活動法人 とす市民活動ネットワーク	佐賀県	緑豊かな森林を守るための次世代・消費者への木育推進事業
特定非営利活動法人 湘南クリーンエイドフォーラム	神奈川県	～拾って調べて繋げる活動～調べるビーチクリーンの普及プロジェクト
特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	東京都	大阪・関西万博を契機としたごみゼロ共創ネットワーク構築
特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所	石川県	ゴミゼロ河北潟の実現にむけたゴミ拾い、調査、啓発活動
瀬戸内海宇治島クラブ	広島県	宇治島サニーアイランド・クリーン作戦
特定非営利活動法人 ジョイライフさやま	埼玉県	入間川の自然を守り環境保全の大切さを伝える自然体験
公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金	熊本県	地下水の涵養と啓発にかかるプロジェクト
一般社団法人 くりはらツーリズムネットワーク	宮城県	CLEAN WETLANDS Project（伊豆沼・内沼のゴミ清掃）
NPO法人 ひらかた生物飼育部LABO	大阪府	耕作放棄水田を利用した生物多様性保全型農業の実践
特定非営利活動法人 エシカルプロジェクト	埼玉県	循環するコンポストの推進事業
環境教育・研究		
公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）	宮城県	SDGs教育プロジェクト　～持続可能な社会の創り手を育てる新たな防災・気候変動環境学習の創造と支援～
一般社団法人 みんなでびぜん	岡山県	日生諸島の海ゴミ0作戦
特定非営利活動法人 こもれびの里	岡山県	西日本豪雨災害の復興支援と高齢化した被災者が所有する荒廃した竹林と里山整備
認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト	滋賀県	琵琶湖におけるマイクロプラスチックの調査と子供たちの環境教育の推進
小泉ユニバーサルビーチユニット	宮城県	子供から発信する地球環境問題　-小泉地区ゴミレポート-
Team JIN「仁」	広島県	アクティブ・ラーニングでの学びを楽しく実践する「私たちの豊かな海づくりwithSDGs」
特定非営利活動法人 吉里吉里国	岩手県	自然環境教育～吉里吉里の森と共に生きる人材の育成～
「食」課題解決・「食」支援に関わる活動		
特定非営利活動法人 フードバンクさが	佐賀県	食と農で人と人をつなぐ、実践型食育・農業事業
特定非営利活動法人 百菜劇場	滋賀県	農の学び舎をつくろう！（竹やヨシを用いた農舎をワークショップ形式で建設）

◆2022年度の活動の模様

人材育成方針

人材育成方針

持続的な成長のために努力と挑戦を続けるエフピコグループの最大の資産は“人材”です。人材の採用から教育、活用、そして退職に至るまで、一人ひとりが個性を発揮できる「人づくり」の仕組みの強化を通じて、やりがいと充実感ある職業人生の実現と組織の一層の活性化を推進し、企業グループ全体の価値向上の途を進んでまいります。

●対話を重視した評価制度と65歳までの選択式定年延長

評価者と被評価者の対話を重視する評価制度を導入しています。社員が中長期的な取組みを考え、目標設定の場で上司と対話することにより、各自の自律的な成長や改善活動をバックアップします。また、評価の場面でも、社員から半期・通期の目標に対する取組み結果をアピールした上で、上司との評価のすり合わせを行うとともに、定年延長・再雇用についても社員との対話を通して希望に応じています。社員が定年を60～65歳の中から選べるほか、65歳以前の定年退職を選択した場合でも、希望者は全員、再雇用社員(1年更新)として65歳まで働くことが可能です。また、本人と会社が希望する場合、65～70歳の再雇用(1年更新)も可能です。

●人材育成に向けた取組み・研修制度

	OFF-JT		一般教育		自己啓発		
役職者	評価者トレーニング		ハラスメント防止研修 管理職向け	けんこうセミナー	資格取得奨励制度、資格取得支援制度	社内通信教育受講支援制度	社外スクール受講支援制度
管理職	新任マネージャー研修						
中堅	リーダー研修	海外研修	ハラスメント防止研修 管理職以外向け				
若手	ワークショップ研修 スキルアップ研修	マンツーマンリーダー研修					
新入社員	新入社員研修 工場研修	フォローアップ研修					

●女性の活躍を推進

女性社員が能力を発揮できる環境の整備も進めています。女性の総合職採用30%以上を目指し、2026年までに女性の管理職を50名(うち役職者を5名以上)とするよう取り組んでいます。

本項目の詳しい内容はこちら

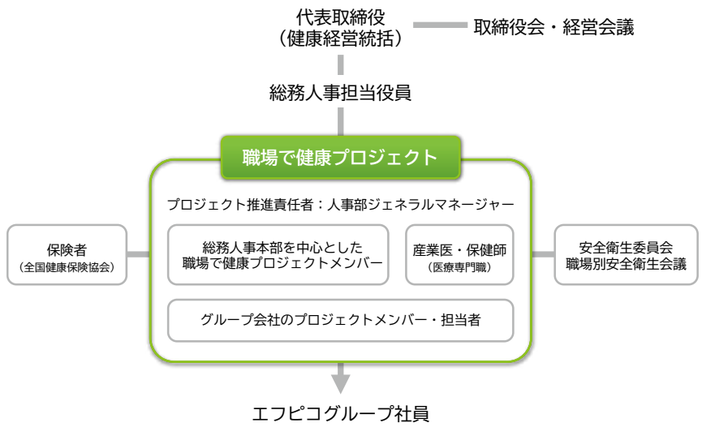
健康経営

エフピコグループ健康宣言

エフピコグループは、創業以来、「健康」を社訓の一つとしています。社員一人ひとりが、やりがいや充実感を持ちながら、イキイキと働くことができるよう、健康維持・増進活動を推進し、健康職場づくりを発展させていきます。

●マネジメント体制

代表取締役を中心とし、全部門が連携して社員の労働環境整備や安全・健康意識の向上を目指した取組みを推進しています。取組み状況や安全衛生上の活動については、取締役が出席する経営会議に報告され、重要な事項については取締役会において審議・報告させることを通じて、取締役会が監査機能を発揮しています。こうした体制で展開する「職場で健康プロジェクト」活動の推進により、様々なプログラムを実施しています。



●「職場で健康プロジェクト」の実施

- ▶「私の健康宣言カード」…各々が毎年自分の健康活動目標を記載し、健康維持・増進への継続的な活動を意識付けします。
- ▶身体と心の健康診断…毎年の定期健康診断に加えストレスチェックについても、全社員を対象として取組んでいます。
- ▶「健康セミナー」…心身の健康について維持増進を図るため、毎年対面及びオンラインによる「健康セミナー」を開催。
- ▶産業医によるサポート・保健指導…50人未満の事業場を含むすべての事業場において産業医を選任し、産業医と連携した安全衛生活動を進めています。また、保健師による特定保健指導の実施や、定期健康診断結果フォローも実施。
- ▶生活習慣改善への取組み…生活習慣改善の推進のため、生活習慣調査を毎年実施する中で、卒煙強化週間やPicoベジweek(野菜摂取週間)、運動機能テストやスマホ歩数ウォークラリーなどを企画し、社員のセルフケアの推進を図っています。
- ▶休職復職支援体制…円滑な職場復帰の実現を図るための支援内容及び体制についてのマニュアルを作成し、長期欠勤者の休職開始のフォローおよび復職フォローの体制を整えています。
- ▶健康情報の発信…社内イントラネットに「職場で健康プロジェクト」専用ページを設け、プロジェクトプログラムの情報発信をしています。また、毎月の『保健師だより』や「職場で健康プロジェクト」のメルマガ配信など、あらゆる機会を通じて健康情報を積極的に発信し、ヘルスリテラシーの向上を促進しています。

本項目の詳しい内容はこちら

商　　号 株式会社エフピコ

設　　立 1962年(昭和37年)7月

代 表 者 代表取締役会長
(兼)エフピコグループ代表 佐藤 守正
代表取締役社長 安田 和之

資 本 金 13,150百万円

社 員 数 979名(エフピコグループ：4,876名)

事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売

福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目13番15号
TEL 084-953-1145　FAX 084-953-4911

東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
新宿オークタワー(総合受付36階)
TEL 03-5320-0717　FAX 03-5325-7811

ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パール紙工」に由来しています。

グループ会社

製造

株式会社エフピコ北海道
株式会社エフピコ山形
株式会社エフピコ茨城
株式会社エフピコ八千代
株式会社エフピコ下館
株式会社エフピコ筑西
株式会社エフピコ富山
株式会社エフピコ中部
株式会社エフピコ兵庫
株式会社エフピコ笠岡
株式会社エフピコ福山
株式会社エフピコ神辺
株式会社エフピコ九州
株式会社エフピコ鳥栖
エフピコダックス株式会社
エフピコ愛パック株式会社
エフピコアルライト株式会社
エフピコグラビア株式会社
西日本ペットボトルリサイクル株式会社

物流

エフピコ物流株式会社
株式会社アイ・ロジック
エフピコイーストロジ株式会社
エフピコウエストロジ株式会社

販売・その他

エフピコ商事株式会社
エフピコチューパ株式会社
エフピコダイヤフーズ株式会社
エフピコインターパック株式会社
エフピコイシダ株式会社
エフピコ上田株式会社

エフピコグループの製造・物流・販売・リサイクルネットワーク

★本社
・福山本社(広島県福山市)
・東京本社(東京都新宿区)

★支店
・大阪支店(大阪府大阪市)

●営業所
・札幌営業所(北海道札幌市)
・仙台営業所(宮城県仙台市)
・静岡営業所(静岡県静岡市)
・新潟営業所(新潟県新潟市)
・北陸営業所(石川県金沢市)
・名古屋営業所(愛知県名古屋市)
・広島営業所(広島県広島市)
・四国営業所(香川県高松市)
・福岡営業所(福岡県福岡市)

●生産工場
・北海道工場(北海道石狩市)
・山形工場(山形県寒河江市)
・関東工場(茨城県八千代町)
・関東八千代工場(茨城県八千代町)
・関東エコペット工場(茨城県八千代町)
・関東下館工場(茨城県筑西市)
・筑西工場(茨城県筑西市)
・関東つくば工場(茨城県下妻市)
・富山工場(富山県射水市)
・中部工場(岐阜県輪之内町)
・中部エコペット工場(岐阜県輪之内町)
・近畿亀岡工場(京都府亀岡市)
・笠岡工場(岡山県笠岡市)
・関西工場(兵庫県小野市)
・福山工場(広島県福山市)
・神辺工場(広島県福山市)
・四国工場(高知県南国市)
・九州工場(佐賀県吉野ヶ里町)
・南郷工場(宮崎県日南市)
・鹿児島工場(鹿児島県鹿児島市)

●リサイクル工場 / 選別・減容センター
・関東リサイクル工場(茨城県八千代町)
・関東PETリサイクル工場(茨城県八千代町)
・中部リサイクル工場(岐阜県輪之内町)
・中部PETリサイクル工場(岐阜県輪之内町)
・福山リサイクル工場(広島県福山市)
・北海道減容センター(北海道石狩市)
・山形選別センター(山形県寒河江市)
・茨城選別センター(茨城県八千代町)
・東海選別センター(静岡県長泉町)
・松本選別センター(長野県松本市)
・金沢選別センター(石川県金沢市)
・岐阜選別センター(岐阜県輪之内町)
・西宮選別センター(兵庫県西宮市)
・福山選別センター(広島県福山市)
・佐賀選別センター(佐賀県神埼市)
・西日本ペットボトルリサイクル(福岡県北九州市)

●配送センター / ピッキングセンター
・北海道配送センター(北海道石狩市)
・東北配送センター(山形県寒河江市)
・関東ハブセンター(茨城県八千代町)
・八王子配送センター(東京都八王子市)
・東海配送センター(静岡県長泉町)
・中部ハブセンター(岐阜県輪之内町)
・関西ハブセンター(兵庫県小野市)
・福山ハブセンター(広島県福山市)
・九州配送センター(佐賀県吉野ヶ里町)
・北海道ピッキングセンター(北海道石狩市)
・東北ピッキングセンター(宮城県大衡村)
・関東ピッキングセンター (茨城県八千代町)
・茨城ピッキングセンター(茨城県八千代町)
・八王子ピッキングセンター(東京都八王子市)
・新潟ピッキングセンター(新潟県長岡市)
・中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)
・関西ピッキングセンター(兵庫県神戸市)
・福山ピッキングセンター(広島県福山市)
・九州ピッキングセンター(佐賀県吉野ヶ里町)

役員紹介

エフピコグループ会社

小泉 哲
エフピコ物流（株）
兼（株）アイ・ロジック
代表取締役社長

小松 毅至
エフピコ商事（株）
代表取締役会長

門田 恒敬
エフピコ商事（株）
代表取締役社長

小澤 克巳
エフピコインターパック（株）
代表取締役社長

平田 光史
エフピコチューパ（株）
代表取締役社長

大谷 直也
エフピコダイヤフーズ（株）
代表取締役社長

後谷 直秀
エフピコ上田（株）
代表取締役社長

濱田 浩三
エフピコイシダ（株）
代表取締役社長

橋口 幸造
エフピコアルライト（株）
代表取締役社長

天野 靖
エフピコグラビア（株）
代表取締役社長

千々木 亨
西日本ペットボトル
リサイクル（株）
代表取締役社長

且田 久雄
エフピコ愛パック（株）
代表取締役社長
兼エフピコダックス（株）
代表取締役会長

岩井 久美
エフピコダックス（株）
代表取締役社長

詳細はこちらをご覧ください

人材データサマリー

従業員の構成（2023年3月末現在）	男	女	合計
従業員数	653	326	979
外国人従業員数	1	3	4
平均年齢	44.5	35.2	41.4
30歳未満	108	128	236
30～39歳	131	83	214
40～49歳	171	94	265
50～59歳	184	14	198
60歳以上	59	7	66
勤続年数	15.9	11.3	14.4
連結従業員数	3,650	1,226	4,876

離職者数	早期	自己	会社	転籍	その他	合計
2022年度	0	28	0	0	1	29

新卒入社者の定着状況	男	女	合計
2020年4月新卒入社者数	13	20	33
2023年4月在籍者	7	19	26

管理職に占める女性比率	女	男	女性比率
	46	383	10.7

障がい者雇用	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
実人数 （人）	358	362	365	365
障がい者雇用率 （%）	13.3	12.7	12.6	12.5

ワーク・ライフ・バランス	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
有給休暇取得率 （%）	53.6	49.3	56.1	57.6
一人あたり月平均残業時間	9.8	8.0	7.8	7.7
産休取得者数 （人）	25	12	15	14
育休取得者数 （人）	28	15	15	20
女性	28	14	13	18
男性	0	1	2	2
女性取得率	100.0	100.0	100.0	100.0
男性取得率	0.0	5.0	9.1	9.5
育児休業復帰率 （%）	92.3	96.0	95.2	100.0

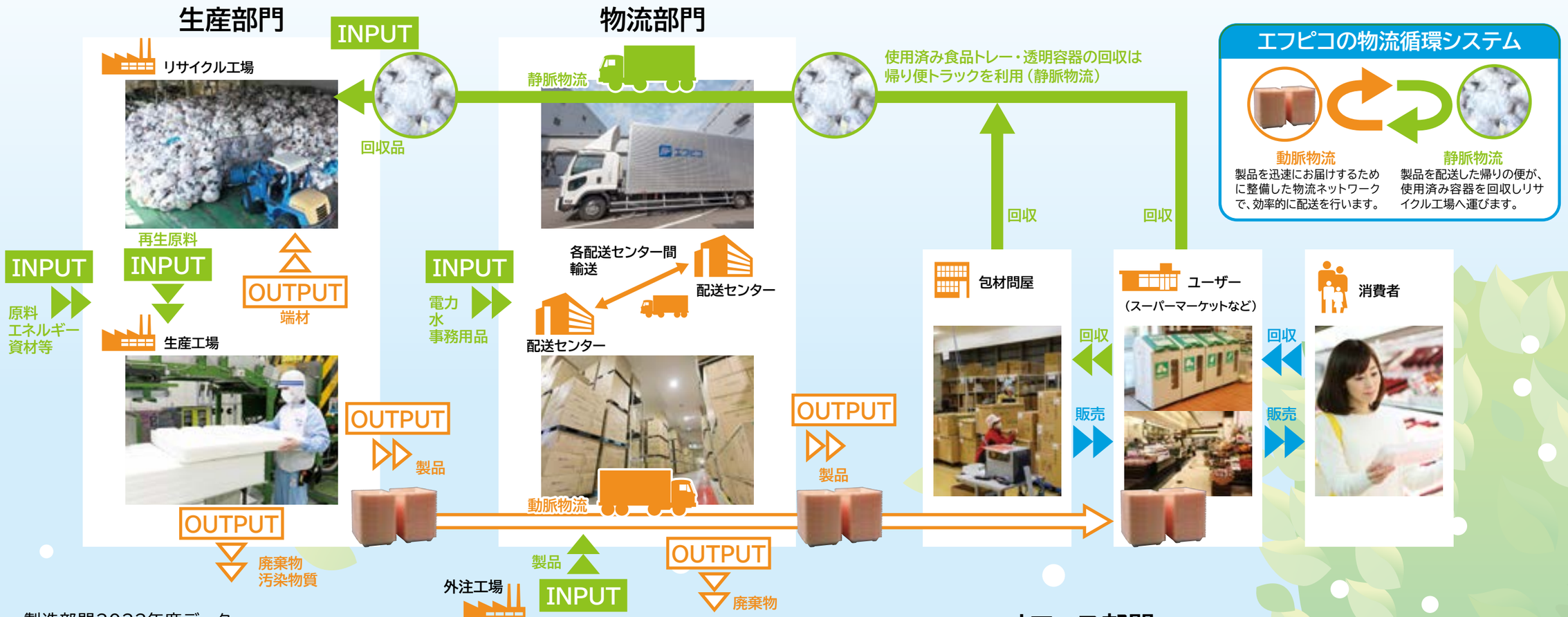
財務サマリー

回次		第57期	第58期	第59期	第60期	第61期
決算年月		2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高	（百万円）	181,171	186,349	187,509	195,700	211,285
経常利益	（百万円）	14,861	16,274	19,381	16,703	17,328
親会社株主に帰属する当期純利益	（百万円）	9,901	10,777	12,211	11,206	11,529
包括利益	（百万円）	9,332	10,461	13,021	11,118	11,558
純資産額	（百万円）	112,198	119,301	124,980	132,455	140,171
総資産額	（百万円）	249,332	242,497	247,234	262,695	298,623
1株当たり純資産額	（円）	1,351.67	1,436.07	1,520.06	1,610.11	1,703.56
1株当たり当期純利益金額	（円）	119.75	130.36	147.80	136.96	140.87
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	（円）	-	-	-	-	-
自己資本比率	（%）	44.8	49.0	50.3	50.2	46.7
自己資本当期純利益率	（%）	9.1	9.4	10.0	8.8	8.5
株価収益率	（倍）	27.3	27.5	30.5	21.3	23.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	25,510	27,770	31,814	23,148	20,071
投資活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	△17,109	△10,989	△19,131	△22,866	△34,306
財務活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	△4,908	△15,643	△15,086	1,578	16,745
現金及び現金同等物の期末残高	（百万円）	19,151	20,288	17,884	19,745	22,255

※1「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第60期の期首から適用しており第59期係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。
※2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
※3 当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、57期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び1株当たり当期純資産を算定しております。

詳細はこちらをご覧ください

環境データサマリー



製造部門2022年度データ

INPUT	エネルギー	電力	393,254,083 kwh
		化石エネルギー	84,557,756 MJ
	水資源	上水	567,165 ㎥
		地下水	172,462 ㎥
		工業用水	85,706 ㎥
	原料（樹脂類他）		207,576 t
	副資材	段ボール	39,892 t
		包装ポリ	3,554 t
	その他	潤滑油	13,243 L
		シンナー	67,879 L
		紙	2,519,600 枚

OUTPUT	製品	製品生産重量	209,817 t
		出荷トラック台数	166,047 台
	廃棄物		30,263 t
	環境汚染物質	煤塵	70 Kg
		NOx	8,491 Kg
		SOx	0 Kg
		BOD	3,458 Kg
		COD	4,824 Kg
		SS	2,210 Kg

物流部門2022年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	17,772,064 kwh
	化石エネルギー	2,621,785 MJ
水資源	上水	22,356 ㎥
その他	紙	9,761,857 枚

OUTPUT	
廃棄物	475 t

オフィス部門

オフィス部門2022年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	3,553,666 kwh
水資源	上水	5,495 ㎥
その他	紙	11,470,856 枚

OUTPUT	
廃棄物	47 t

社会的な評価

●外部評価

エコマークアワード
第1回金賞受賞

平成27年度
地球温暖化防止活動
環境大臣表彰

CDP気候変動への情報開示
2022 年度評価「A-」

2023
健康経営優良法人
Health and productivity

DIVERSITY MANAGEMENT SELECTION 100 2015

D&I AWARD ADVANCED 2022
ダイバーシティ&インクルージョンアワード

SPORTS YELL COMPANY 2023

●ESG指数

世界主要企業約3,000社を対象とするESG評価に基づく株式指数シリーズ「FTSE4Good Index」に、エフピコも選定されています。

FTSE4Good

FTSE Blossom Japan

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

2022 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき多面的に性別多様性スコアを算出し、各業種から同スコアの高い企業を選別して指数を構築。「FTSE Blossom Japan Index」同様、GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が選定するESG指数の一つ。

●環境関連参画団体

エコファースト企業制度
認定

CLOMA

J4CE

創業60周年を記念し、社員による作品応募と審査で決定したマスコットキャラクターの“ピコザウルス”は、エフピコグループ内で思わぬ人気を博しています。今風に言うと、“バズって”います。一番の理由はその可愛らしさと少しとぼけた感じの絶妙なバランス、そしてなによりトレーの回収ボックスがモチーフになっているというところではないでしょうか。あまりの人気ゆえアイドル並みに様々なグッズが出来ています(と言いますか、作っているわけですが)。ストラップ、ボールペン、卓上カレンダー、LINEスタンプ、そして写真の通りの着ぐるみまで。スーパーマーケットに設置できる回収ボックスも制作しましたが、実際に使っていただけるどうか今後の展開を見守りたいと思います。同じ回収ボックスでもお子様に可愛がっていただけるようなルックスなら、きっと使用済みトレーの回収量も増えるに違いありません。大いに期待しているところです。

「エフピコレポート2023」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。内容の継続的な改善のためにも、当レポートに添えてありますアンケートに是非ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

サステナビリティ推進室
ジェネラルマネージャー

冨樫英治

FPCO Report 2023

株式会社 エフピコ

福山本社　〒721-8607 広島県福山市曙町1-13-15　TEL (084) 953-1145
東京本社　〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー 36F　TEL (03) 5320-0717
大阪支店　〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F　TEL (06) 6441-2468
営 業 所　札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

■ホームページ　https://www.fpco.jp/　■eメール　Env-FP@fpco-net.co.jp